

地球のいのち、つないでいこう



わたしたちは生物多様性に配慮しています。



積水樹脂グループ
環境・社会報告書
Environmental & Social Report

2015

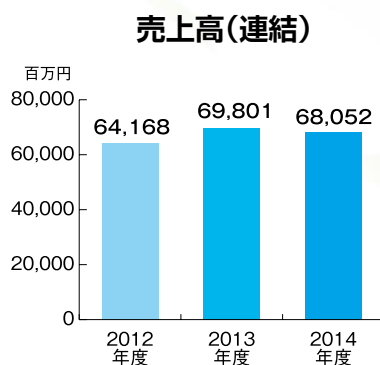


積水樹脂株式会社

積水樹脂グループは、価値ある製品の創造を通じて 社会の福祉と進歩に貢献します

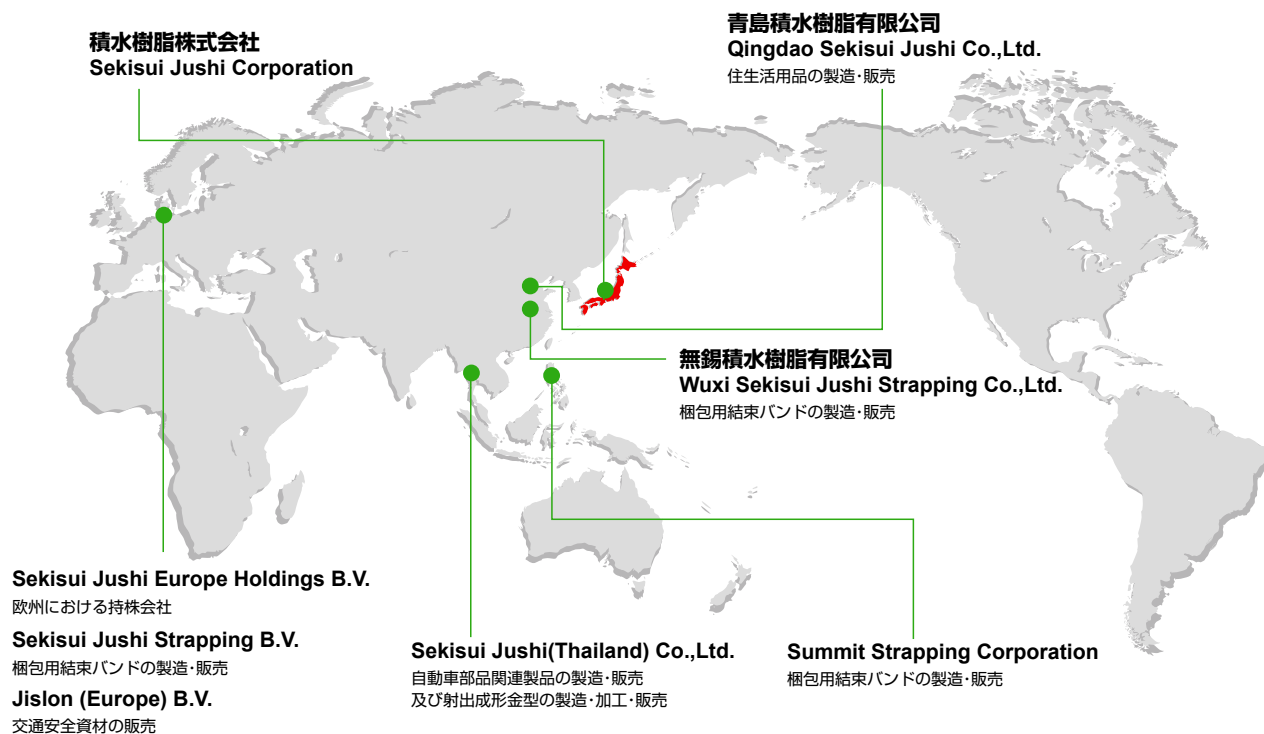
会社概要 (2015年3月31日現在)

社 名 積水樹脂株式会社
 本店所在地 〒530-8565 大阪市北区西天満二丁目4番4号
 設立年月日 1954年(昭和29年)11月26日
 代表者 福井 彌一郎 (代表取締役社長)
 U R L <http://www.sekisuijushi.co.jp/>
 資本金 12,334百万円
 売上高(連結) 68,052百万円
 経常利益(連結) 9,456百万円
 従業員数(連結) 1,454名
 連結対象子会社 29社
 持分法適用会社 2社



積水樹脂グループのグローバルネットワーク

海外グループ会社(グローバル)



国内グループ会社

東北積水樹脂株式会社 (宮城)
 関東積水樹脂株式会社 (群馬)
 積水樹脂キャップアイシステム株式会社 (東京)
 日本ライナー株式会社 (東京)
 積水樹脂プラメタル株式会社 (長野)
 エスジェイシー寿株式会社 (三重)
 スペーシア株式会社 (滋賀)

オーミテック株式会社 (滋賀)
 積水樹脂電子テクノ株式会社 (滋賀)
 積水樹脂商事株式会社 (大阪)
 積水樹脂産商株式会社 (大阪)
 サンエイポリマー株式会社 (山口)
 宮崎積水樹脂株式会社 (宮崎)
 ロードエンタープライズ株式会社 (鹿児島)

土浦つくば積水樹脂株式会社 (茨城)
 北陸積水樹脂株式会社 (石川)
 滋賀積水樹脂株式会社 (滋賀)
 広島積水樹脂株式会社 (広島)
 その他機能分社

Contents



「車両の逆走防止対策」(佐賀)



「企業のおづくり活動」(岡山)



「積水樹脂サッカースクール」

社長メッセージ	3
事業概要	5
事業分野別 製品のご紹介	5
積水樹脂グループの事業展開(トピックス)	7
特集:積水樹脂グループのCSV	9
環境報告	15
第5次環境3カ年計画(2013~2015年度)環境活動の取り組み	15
事業・製品による環境貢献	17
地球環境調和型製品	19
事業活動における環境負荷の低減	21
リサイクルへの取り組み	23
生物多様性の保全	25
サイトレポート	27
社会性報告	33
社会貢献活動	34
コミュニケーション活動	37
従業員と社内風土	39
労働安全衛生活動	41
品質管理活動	42
経営基盤の強化	43
データ編	45

本報告書の対象

■対象期間

2014年度 (国内グループ会社は2014年4月1日から2015年3月31日まで)
(海外グループ会社は2014年1月1日から2014年12月31日まで)

※重要事項については、2014年度以前・以降のものも報告しています。

■対象範囲

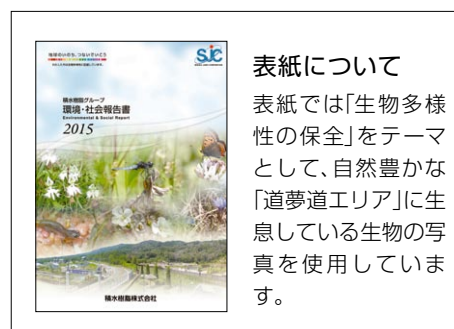
積水樹脂株式会社および連結対象の国内・海外グループ会社

※重要事項については、上記以外の海外グループ会社についても対象としています。

※2015年3月20日に連結子会社化した日本ライナー(株)については、環境データの集計範囲に含めていません。

編集方針

本報告書は、積水樹脂グループの環境・社会活動についてご報告するとともに、環境・社会活動のさらなる向上を目指し、ステークホルダーのみなさんとコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。また、本報告書は会社案内も兼ねて作成し、当社グループの理念、事業活動、製品等についても報告しています。なお、掲載項目については、環境省「環境報告ガイドライン(2012年度版)」を参考にしながら、当社グループの活動に照らして、重要な項目に絞って報告しています。



表紙について

表紙では「生物多様性の保全」をテーマとして、自然豊かな「道夢道エリア」に生息している生物の写真を使用しています。

積水樹脂グループは、事業を通じて 「社会的な課題の解決」と「企業の成長」の両立を実現します



代表取締役社長

福井 彌一郎

CSV（共有価値の創造）とは

社会問題の解決と企業の成長を両立させ、社会と企業の両方に価値を生み出す取り組みです。

積水樹脂グループのCSV

私たち積水樹脂グループは、「価値ある製品の創造を通じて社会の福祉と進歩に貢献する」という経営理念のもと、事業を通じて「社会的な課題の解決」と「企業の成長」を両立させることを目指して、事業活動を進めております。この考え方は、「CSV（共有価値の創造）」の考え方に沿うものであり、当社グループが社会から信頼され、ともに成長する原動力となっております。

私たちを取り巻く社会的課題は数多くありますが、当社グループは「安全・安心」、「環境保全」をキーワードとして、「安全・安心な道づくり」、「災害に強いまちづくり」、「環境に配慮した製品による環境負荷の低減」などに向けた取り組みを積極的に進めています。

例えば、近年、社会的な課題とされている「高速道路上での逆走防止対策」に対して、交通安全資材の総合メーカーとしての強みを活かし、逆走が多発するインターチェンジやジャンクションにおいて、視覚効果により立体的に見える路面標示材を設置するなど、現場の状況に適した方法により、ドライバーに「通常の道路と異なる印象を与える」ことで、自らが逆走していることを気づかせ、進路修正させる」ことを目的とした提案を進めています。

この他にも、当社グループは、「安全・安心」、「環境保全」に貢献する製品の提案活動を積極的に行っており、これらの活動を通じて得られたご意見などを新製品開発に活かしております。

その成果を皆様にご覧いただくため、当社の大規模試験走路「道夢道」において、2014年11月に「新製品発表会2014」を開催いたしました。

第13回目となる今回の新製品発表会では、『次世代の「安全・安心」に貢献し、「人」と「環境」に配慮した製品のご提案』をテーマに、各種製品の性能試験、実演展示などの体験型の企画を行い、国内外より1,500名以上の皆様にご来場いただきました。私たちの製品に対する思い、品質へのこだわりをご理解いただくとともに、「人や環境に優しい次世代のまちづくり」に向けて、活発な意見交流を行うことができました。

全員参加で環境活動に取り組んでいます

環境活動としましては、「第5次環境3カ年計画（2013～2015年度）」に基づき全員参加で環境負荷の低減に取り組んでおります。2014年度は「国連生物多様性の10年日本委員会」への活動支援や森林保全活動を継続するとともに、カスミサンショウウオやサギソウなど希少種が多く生息する「道夢道エリア」において生物調査・保全を行うなど、「生態系の保全」と「事業活動」の両立に向けた取り組みも開始しております。

第5次環境3カ年計画は、2015年度が最終年度となりますので、この計画で定めた目標達成に向けて全社一丸となって環境負荷の低減に取り組んでまいります。

社会貢献活動も積極的に

社会貢献活動としましては、創立60周年記念事業の一環として、青少年の育成を目的に、地域のサッカークラブに所属する小学生を対象としたサッカースクールを、2013年4月から2014年7月にかけて全国7カ所の当社人工芝納入グラウンドにて開催いたしました。全7回のサッカースクールには、合計1400名以上の方々にご参加頂き、子供たちやその保護者をはじめとする地域の皆様に喜んでいただくとともに、当社への理解を深めていただく貴重な機会にもなりました。

また、「公益財団法人 交通遺児育英会」に製品の収益の一部を寄付する取り組みも継続して実施致しました。

当社グループは、多岐にわたる社会の要請に応えることで、社会とともに継続的な成長を実現するべく、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを一層深めていきたいと考えております。

今後とも、貴重なご意見、ご指導をいただければ幸いです。

経営理念

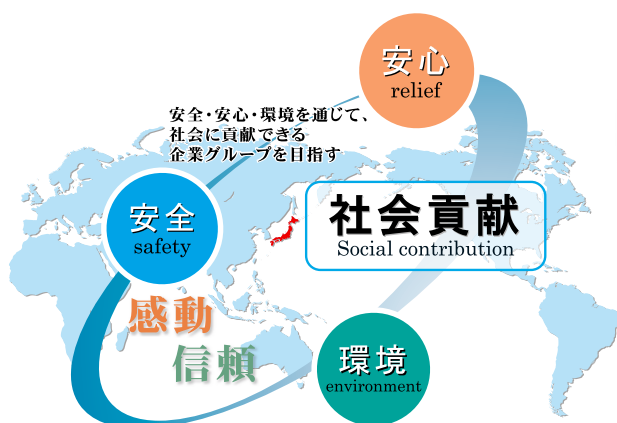
積水樹脂株式会社は、プラスチックと金属、繊維その他の物質とを結びつけた、価値ある製品の創造を通じて社会の福祉と進歩に貢献し、会社の限りなき発展と従業員の豊かな生活を実現する。

経営理念を補完するべく、目指すべき姿を明確化

経営ビジョン2020(2010年策定)

『価値ある製品の創造を通じて“世界の安全・安心” “地球環境の保全”に貢献し、世界中の人々に信頼され、感動を提供し続ける企業グループ』を目指します。

～Hybrid Value Companyを目指して～



独自の技術により特色ある製品の事業化をはかっています

公共分野

交通環境資材事業

太陽電池や電子技術、防音・遮音技術などを駆使し、時代のニーズに応える製品が、“安全・安心”な道づくりや道路周辺の景観性向上に貢献します。

防音壁材



統一型防音壁

道路標識



路側標識(避難誘導) + ソーラーLMIT2

サイン・看板



観光案内サイン

路面標示材



立体に見える標示 ソリッドシート

保安用品



車線分離標 ボールコーンガード

電子システム製品



自発光道路鋸 リニアポインタ

道路反射鏡



ハイドロクリアンミラー

交通安全資材



視線誘導標 デリニエーター

スポーツ施設事業

耐久性・安全性に加え、すぐれたプレー性を兼ね備えた人工芝(ドリームターフ)は、その品質が評価され、全国の学校や自治体のグラウンドにご採用いただいています。

スポーツ用人工芝



ドリームターフ「cool」(サッカー場)



ドリームターフ「cool」(小学校グラウンド)

エクステリア用人工芝



ガーデングラス

民間分野

住建事業

景観に調和するシンプルなデザインでありながら、騒音などの住環境を取り巻く諸問題の対策に貢献する高機能製品を提供しています。

メッシュフェンス



メッシュフェンス りょう

めかくし塀



めかくし塀B型(簡易遮音タイプ)

防音めかくし塀



防音めかくし塀PS-4型 緑化タイプ

縦格子フェンス



縦格子フェンス ET50HC

メッシュストッカー



大型メッシュストッカー

自転車置場



サイクルシェルター-GSLシリーズ

人工木・建材事業

独自の技術により、省資源化や長寿命化を実現した、人工木材やメタカラー建材をはじめ、騒音対策が可能な高機能面材など様々な建築内外装材を提供しています。

商業施設外装材



角型テンダーウッド

戸建住宅デッキ材



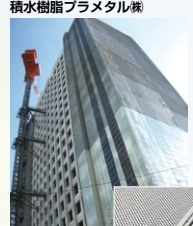
スーパーオレンジウッド

装飾建材



メタカラー建材

建材製品



積水樹脂ブラ金属構
防音アフィラウォール

公共分野

景観資材事業

美しいまちづくりに貢献する高い意匠性と安全性能。これからの「人中心のみちづくり」におけるさまざまなシーンで、「安全・安心」に貢献する製品を提供しています。

ソーラー照明灯



高配光型ソーラー照明灯

防護柵



シティ柵 77HGTK

車止め



弾性車止め DK-10

組立歩道



コンクリート壁後付け階段システム

高欄



橋梁用ビーム型防護柵ビューレイル

公園資材



災害対応ベンチ かまどベンチ

シェルター



通路シェルター TS-300R

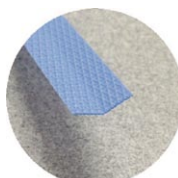
総合物流資材事業

梱包用結束バンド「PPバンド」をはじめ、梱包資機材、デジタルピッキングシステムなど多彩な製品を品揃えし、物流資材の総合メーカーとして、作業の効率化・合理化等にご貢献します。

梱包用結束バンド・フィルム



ゆうバンド



そうバンド

そうバンド

端部が持ち上がる構造で
梱包物にソフトタッチ

梱包資機材



バックインストレッチ

デジタルピッキングシステム
積水樹脂キャップアイシステム機



アンサーキット

組立システムパイプ
スペース機



食品加工工場/作業ラック

OPPフィルム
サンエイポリマー機



花束用フィルム

自動車部品関連製品
Sekisui Jushi (Thailand) Co., Ltd.



ドア内装

車内ミラー

民間分野

アグリ事業

耐久性・作業性に優れた農業・施設園芸資材が、快適な農業環境づくりに貢献します。

農業資材



農園芸用支柱 イボ竹



農業ハウス用資材 バイライン



菜園アーチ支柱

園芸資材



FRPポール ニューセキスイポール

住生活資材事業

人や環境にやさしく、機能的な製品。斬新なデザインの生活用品が、豊かな生活環境づくりに貢献します。

ものほし用品



ものほし台 IPPIN

収納用品



つっぱり式ものほし
あいツリー WOOD



洗濯機ラック
DSR-9

家庭用日用品



自然気化式エコ加湿器
うるおい Blossom



お風呂用皮脂取り
ゆくりん

世界の“安全・安心” “地球環境の保全” に貢献できる企業グループ

国内における新たな事業展開

国内

日本ライナー株式会社の 経営権を取得

道路塗料全般の販売強化に加え、今後拡大が見込まれる「インフラ補修」等の新たな事業展開をはかるため、2015年3月に道路塗料の販売・交通安全関連工事の施工に強みを持つ日本ライナー株式会社の経営権を取得しました。



道路塗料販売・工事



道路補修工事



高架橋塗装



橋梁補修



路側補修塗装



2014年度における製品の主な採用事例

公共分野

交通安全製品 (欧州)



オランダ



イギリス

欧州市場において、弾性車止めの高い復元性能が評価され、多数採用されました。

サイン製品



群馬県富岡市



群馬県富岡市

サイン製品は、世界遺産に登録された富岡製糸場周辺道路などに幅広く採用いただきました。

を目指し、国内外で積極的な事業展開を進めています

新たなグローバル展開

海外

セキスイジュシプラメタル (タイランド)生産工場の建設

東南アジア地域におけるアルミ樹脂積層複合板事業の拡大を目指し、タイ王国において本格生産開始に向け取り組んでいます。(2015年9月竣工)



■アルミ樹脂積層複合板の主な使用用途



ビル外装パネル



天井パネル



■ シェルター製品



熊本県宇土市

シェルター製品は、都市景観に合った意匠性の高さや長スパンの柱ピッチを可能とするバリアフリー構造が評価され、駅前通路やバス停に採用されました。

民間分野

■ めかくし塀製品



大阪府大阪市

プライバシー対策として需要が多いめかくし塀は、その機能性とデザイン性から商業施設や集合住宅などの外構製品として好評を博しています。

■ メタカラー製品



東京スカイツリー内「すみだ水族館」

国土交通省の定める不燃認定を取得しているメタカラー建材(不燃タイプ)は、その高い意匠性・加工性から商業施設や駅、空港などの人が集まるエリアの建築資材として採用が広がっています。



メタカラー建材

特集 「安全・安心」、「環境保全」をキーワードに 社会課題を解決し、CSVを実現します

積水樹脂グループは、「価値ある製品の創造を通じて社会の福祉と進歩に貢献する」という経営理念のもと、「安全・安心」、「環境保全」をキーワードとした製品づくりで社会に貢献したいという想いで企業活動に取り組んでおり、事業を通じて社会的な課題に対する解決策を提供することにより、CSVの実現を目指しています。この特集ページでは、当社グループのCSVの考え方や主要なCSVテーマに対する活動事例をご紹介します。

社会とともに積水樹脂グループが成長



経営理念

積水樹脂株式会社は、プラスチックと金属、繊維その他の物質とを結びつけた、価値ある製品の創造を通じて社会の福祉と進歩に貢献し、会社の限りなき発展と従業員の豊かな生活を実現する。

経営ビジョン



“安全・安心” “地球環境の保全” に貢献する取り組みをグローバルに展開

CSV: Creating Shared Value (共有価値の創造)

社会課題の解決と企業の成長を両立させ、社会と企業の両方に価値を生み出す取り組みです。

CSV 社会と共有できる価値の創造

事業を通じて社会的な課題に対する解決策を提供することが、積水樹脂グループのCSVです。「安全・安心」、「環境保全」をキーワードに、取り組みを進めています。

キーワード	主要なCSVテーマ
 <p>安全 安心</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●安全・安心な道づくり <ul style="list-style-type: none"> ・逆走事故防止対策 ・通学路・生活道路安全対策 ・雪道での安全対策 ●災害に強いまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい避難情報の提供 ・避難路の安全対策 ・避難場所の対策 <p>次頁以降で 活動事例をご紹介します</p>
 <p>環境 保全</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●製品の開発・設計から使用・廃棄までの各段階で環境に配慮した地球環境調和型製品を通じて、環境負荷を低減 <p>地球環境調和型製品 P17~P20でご紹介</p>

CSR 社会の要請に応える

企業の社会的責任(CSR)を果たすため、企業人としてどのように行動すべきかを定めた「積水樹脂グループ企業行動指針」に基づき、CSR活動を進めています。

企業行動指針の詳細は、P33 をご参照下さい

主要なCSR活動	
環境保全活動 P 21~	従業員と社内風土 P 39
社会貢献活動 P 34	労働安全衛生活動 P 41
コミュニケーション活動 P 37	品質管理活動 P 42
経営基盤の強化 (コンプライアンス、コーポレートガバナンス、リスクマネジメント体制) P43	

積水樹脂グループの主要なCSVテーマ①

安全・安心な道づくり

現在の日本は、自動車なしでは経済活動も毎日の暮らしも成り立ちません。人々の行動範囲の広がりや交通機関の急速な発展に伴い、道路交通網は年々変貌を遂げ、「安全・安心」を基本とする整備の充実が求められています。しかし、交通事故は道路交通網の発展と共に増加し、死亡事故件数は減少傾向にあるものの負傷者数・事故発生件数は依然として多い状況が続いています。このような中、積水樹脂グループは、歩行者、自転車、自動車などあらゆる人・モノが「安全・安心」に通行できる交通環境づくりに向けたご提案を行っています。ここでは、「安全・安心な道づくり」に関連する「3つの課題」に対する取り組み事例をご紹介します。

課題 1

逆走事故防止対策

課題 2

通学路・生活道路の安全対策

課題 3

雪道での交通安全対策

課題1 逆走事故防止対策

自らが逆走していることを気づかせる製品の提案

近年、高齢ドライバーなどによる高速道路上での逆走が多く発生しています。高速道路での逆走は、重大事故につながる可能性が高く、その対策が社会的な課題となっています。

この問題を解決するため、当社は、交通安全資材の総合メーカーとしての強みを活かし、逆走の約半数が発生するインターチェンジやジャンクションにおいて、ドライバーに「通常の道路と異なる印象を与える」ことで、自らが逆走していることを気づかせ、進路修正させる」ことを目的とした様々な提案を進めています。

豊富な製品群を活かした様々な提案



蛍光反射体の矢印板により進行方向を明示します



路側での注意喚起

通常の道路と異なる印象を与える

連続した注意喚起

ドライバー等が見落としにくいように、連続的に注意喚起します



立体的に見える路面標示材を設置することで、ドライバーに自らの逆走を気づかせます。

路面での注意喚起

逆走ドライバーに気づきと進路修正を促す



課題2 通学路・生活道路の安全対策

狭い道路にも設置できる高強度横断防止柵で歩行者の安全を確保する製品の提案

登下校中の児童生徒等が巻き込まれる痛ましい交通事故が相次いで発生したことを背景に、「通学路・生活道路の交通安全対策」が社会的な課題となっています。歩行空間の安全の確保には、車両の歩道内への進入を防止する車両用防護柵の設置が有効ですが、幅員が狭いため設置が困難な箇所が数多くあります。この問題を解決するため、当社は限られた幅員にも設置可能な高強度横断防止柵P種「シティガード」を開発しました。



シティガード

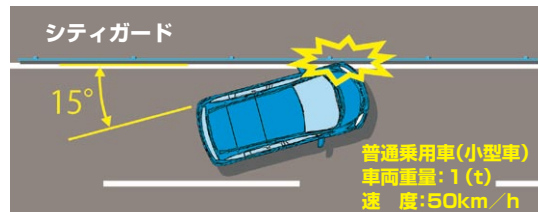
高強度横断防止柵P種「シティガード」とは

通学路や生活道路など幅員が狭い場所にも設置可能なスリムな設計でありながら、普通乗用車(小型車)の衝突を考慮した強度を有する横断防止柵(P種)です。

「シティガード」の強度とは・・・

普通乗用車(1t)が時速50km/h・衝突角度15度で衝突しても突破されない構造(社内基準)

- 生活道路で事故を起こしている車種の約97%が普通乗用車以下の小型車
→ 普通乗用車(1t)
- 生活道路の法定速度30km/h+α
→ 衝突速度50km/h
- 道幅を考慮した衝突角度
→ 衝突角度15°



※本製品は車両用防護柵の強度を有するものではありません。



歩道幅1mの狭い道路でも歩行空間を確保します

特集

課題3 雪道での交通安全対策

降雪時でも車線を見やすくする製品の提案

冬季降雪する地域では、視界不良による交通障害が発生し、その対策が社会的な課題となっています。この課題の解決に向けて、当社は、かねてより様々な種類の防風防雪柵や視線誘導機器(自発光デリニエーター、スノーポール等)を開発し、提案してきましたが、気象条件・地形条件の厳しい区間では、より視線誘導効果の高い製品が求められていました。そこで、当社は、(株)ネクスコ・エンジニアリング東北と共同で、全く新しい手法により、夜間、路面状況に関わらずドライバーに道路線形をわかりやすく伝える視線誘導発光体「帯状ガイドライト」を開発しました。

「帯状ガイドライト」とは

帯状ガイドライトは、LEDと特殊オリジナルレンズを組み合わせ、上方より帯状発光ラインを外側線に照射することで路面状況に関わらず、ドライバーへ道路線形をわかりやすく伝える製品です。特に降雪により見えにくくなった外側線の位置を明示することで車両の良好な走行、ドライバーの運転支援に貢献します。



帯状ガイドライト



〔昼間〕



〔夜間〕

帯状ガイドライトは、上方より外側線を照射するので、夜間、路面状況に関わらず視線誘導が可能です。

帯状ガイドライトは、外側線を明示することで車両走行位置をドライバーに明確に知らせます。



〔乾燥路面〕

〔湿潤路面〕

〔積雪路面〕



〔従来製品〕

〔帯状ガイドライト〕

様々な路面環境において夜間わかりにくくなった外側線を明示し道路線形を明確にドライバーに知らせます。

わかりにくかった車両と道路の横方向の位置関係を明確にし、車両の走行軌跡が安定します。

積水樹脂グループの主要なCSVテーマ②

災害に強いまちづくり

積水樹脂グループは、阪神・淡路大震災直後から減災・防災に貢献できる製品の研究・開発をスタートし、これまで様々な減災・防災関連製品を開発してきました。現在は、減災対策で求められる機能を備えた豊富なラインナップと、これまでの研究・開発で培ったノウハウにより、災害に強いまちづくりに向け、避難路・避難場所整備をまるごとサポートするご提案を行っています。ここでは、「災害に強いまちづくり」に関連する「3つの課題」に対する取り組み事例をご紹介します。

課題 1

分かりやすい
避難情報の
提供

課題 2

避難路の
安全対策

課題 3

避難場所の
対策

課題 1 分かりやすい避難情報の提供

誰もが直感的に理解できる「避難情報」を提供する製品のご提案

万一の災害発生時において、誰もが安全に避難行動をとることができる様に、当社グループは誰もが直感的に理解できる「避難情報」を提供するため、ユニバーサルデザインを用いた製品のご提案を進めています。

ユニバーサルな減災情報を提供

大切ないのちを守るために、土地勘のないビジターや増加する外国人観光客にとっても、直感的にわかりやすいユニバーサルな減災情報の表現を行っています。

夜間対策による安心の向上

ソーラー電源により夜間や停電時においても、製品の視認性を確保しています。



ソーラー電源灯付避難誘導サイン

安全色
(ISO・JIS)
の活用

安全色については情報を表現する色が規定されており、当社グループでは、「避難誘導」は「安全な状態」を示すグリーンを推奨しています。

わかりやすさ
の向上

防災
ピクトグラム
(図記号)の
活用

直感的に情報理解できるコミュニケーションツールとして文字情報を補完するとともに、一般的なサインとの差異化により緊急時の誘目性を高めます。

夜間の安心
の向上

避難誘導
サインの夜間の
視認性向上

避難誘導サインにソーラー電源灯を付加することで、遠方から認識しやすくなり、災害時の迅速な避難につながる整備を進めています。

積水樹脂グループの減災への取り組み



●奥尻島避難路向け避難標識の開発
1994年



●NPO防災デザイン研究会への参画
1996年～現在に至る



●津波防災サインの開発
2004年～現在に至る



●東日本復興プロジェクトの設置
2011年～現在に至る

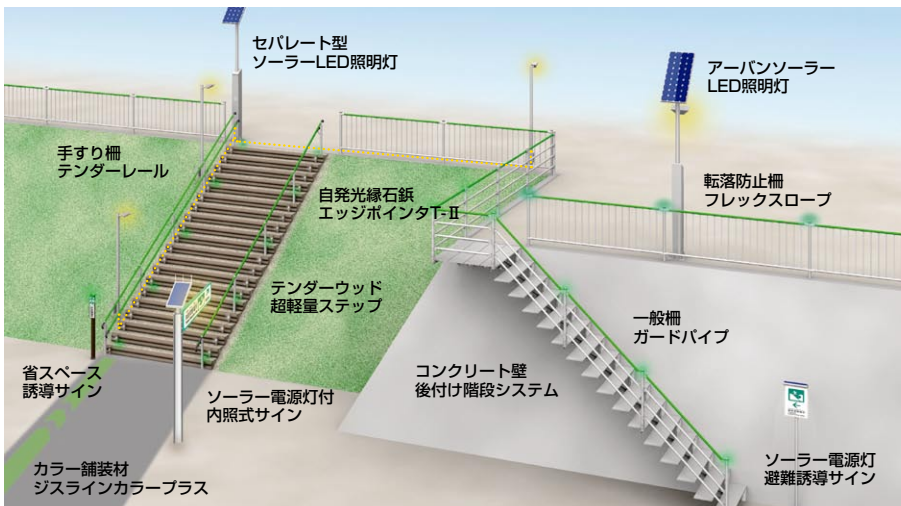


●減災・災害対応製品展示場の整備(宮城県)
2012年～現在に至る

課題2 避難路の安全対策

安全かつ迅速な避難をサポートするための製品の総合提案

過去に発生した地震・津波は夜間に発生したケースも多いことから、災害時に迅速かつ安全に避難するためには、避難路の夜間対策が非常に大切です。当社グループは、長年、事業を通じて培ってきた技術力や提案力を活かし避難路の安全対策に貢献する製品を総合的に提案しています。



照明灯とソーラーパネルを分離設置可能としたセバレートソーラー照明灯で日照条件の悪い避難路を明るく照らします。



津波避難タワーに当社の手すり柵や転落防止柵が採用されました。

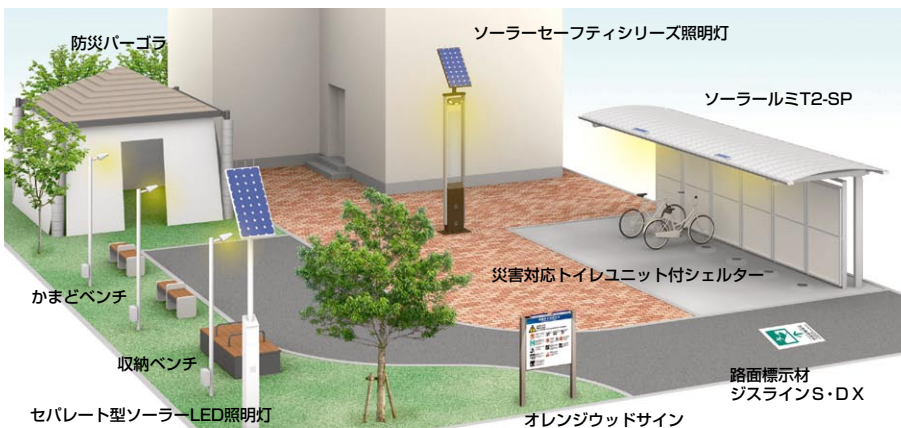


ソーラー電源式の内照パネルを備え、遠方からの夜間視認性に優れた避難誘導サインです。

課題3 避難場所の対策

緊急時には災害対応に利用できる製品の提案

災害発生時において、調理設備やトイレなど日常生活に欠かせない設備が不足し、被災者への負担が大きいことから、その対策が課題となっています。そこで、当社グループは、日常時には、公園資材や自転車置き場として利用でき、災害時には災害対応に利用できる製品を開発し、避難場所の事前整備を提案しています。



日常時は自転車置き場として、災害時はトイレとして利用できるトイレユニットです。簡単に組立てることができます。



日常は公園利用者の「憩いの場」として、緊急時は「簡易な災害対策施設」として機能します。

環境報告

地球のために 子供たちの未来のために

積水樹脂グループは、持続可能な発展にむけて環境保全、環境教育、環境調和型製品の開発及びCO₂排出量削減などの取り組みを推進しています。



ツバメシジミ



アジアイトトンボ



ミヤマアカネ



チョウトシボ



シュレーゲルアオガエル



ハッチョウトシボ

環境経営理念

我々は、かけがえのない母なる「地球」を、環境破壊・資源枯渇等、地球環境問題から保護することを最重要課題と認識し、地球に優しい環境調和型製品・事業活動を通じて「地球と人類の永続的調和」及び「人間性豊かな生活環境づくり」に貢献します。

第5次環境3カ年計画(2013～2015年度)環境活動の取り組み

事業・製品による環境貢献 17～20ページ

地球環境調和型製品の拡大

<目標>

地球環境調和型製品

・売上高比率:32%以上

・新製品数:46件

<実績>

売上高比率

29.4%

新製品数

42件

事業活動における環境負荷の低減 21～22ページ

CO₂排出量

国内生産事業所

<目標>:3.0%以上削減

国内オフィス

<目標>:1.0%以上削減

原単位*

2012年度比

<実績>

5.0%削減

<実績>

21.2%削減

廃棄物排出量

国内生産事業所

<目標>:4%以上削減

<実績>

1.6%増加

化学物質排出・移動量

PTPR法に基づく化学物質

<目標>:2%以上削減

<実績>

3.7%削減

* 原単位とは 製品の一定量を生産するのに必要な各生産要素(エネルギー、原材料など)の量及び排出される環境負荷量(CO₂、廃棄物、化学物質)です。



アサヒナカワトシホ



ニホンイシガメ



コオニヤンマ



大規模試験走路『道夢道』

「道夢道(どうむどう)」とは、交通安全製品や景観資材の性能・品質を実際の条件の下で実験する研究施設です。安全で快適、美しい環境づくりに求められる高品質な製品の開発・生産にとって欠くことのできない施設です。



トウカイコモウセンゴケ



ベニシジミ



ヤチスギラン



オシオカワトシホ



サトヤマハリスゲ

環境経営方針

「資源は節減・循環、廃棄はゼロ、環境は改善・保全」

1. 地球環境に対し、「廃棄はゼロ、環境は改善・保全」を通じて社会的責任を果たします。
2. 地球環境調和型製品の開発を通じて、「資源は節減・循環」に貢献します。



コチドリ

生物多様性の保全 25～30ページ

環境保全活動・ 環境コミュニケーションの拡大

- 「国連生物多様性の10年日本委員会」への協賛
- 「SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク」への参画
- タイ王国におけるマングローブの植林活動の実施
- 事業所に生息する希少種の保護
- 森林保全活動の継続

自然豊かな中にある『道夢道』には、 多くの生き物が生息しています。

ここで掲載している生き物は、すべて道夢道エリアで撮影されたものであり、この中に7種の絶滅危惧種が含まれています。

『絶滅危惧種』

- ・ニホンイシガメ・トウカイコモウセンゴケ・ミヤマアカネ
- ・サトヤマハリスゲ・ヤチスギラン・シュレーゲルアオガエル
- ・コチドリ

※ここでいう「絶滅危惧種」とは、環境省RDB2014もしくは滋賀県RDB2010に掲載されている絶滅のおそれのある種をいいます。

製品の開発・設計から使用・廃棄までの段階で環境に配慮した地球環境調和型製品を通じて、環境負荷の低減に取り組んでいます

地球環境調和型製品とは

社内基準を満たす環境面で有利な製品です

地球環境調和型製品は、以下のいずれかの社内基準を満たす、環境面で有利な製品をいいます。

基準 1

製品のライフサイクルのいずれかの段階において環境負荷を低減させるように設計された製品

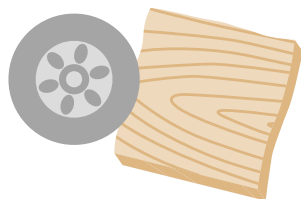
基準 2

納入先が指定する環境基準を満足するように設計された製品

基準 3

エコマークおよび各自治体の環境認定基準に適合した製品

地球環境調和型製品のご紹介



再生材の利用

廃プラスチックや廃木粉、廃タイヤゴムなどを再利用し製品化しています。



DK-5 (廃タイヤチップ弾性車止め)



自転車レーン(廃材仕様カラーライン)



オレンジウッドデッキ
(廃プラスチック再生人工木)



オレンジウッドかまどベンチ
(廃プラスチック再生人工木)



テンダーウッド柵
(廃プラスチック再生人工木)



プライテックス
(環境配慮型 梱包用結束バンド)



CO₂削減

使用エネルギーを低減します。



うるおいBlossom
(自然気化式加湿器)



うるおい「ちいさな森」
(自然気化式加湿器)



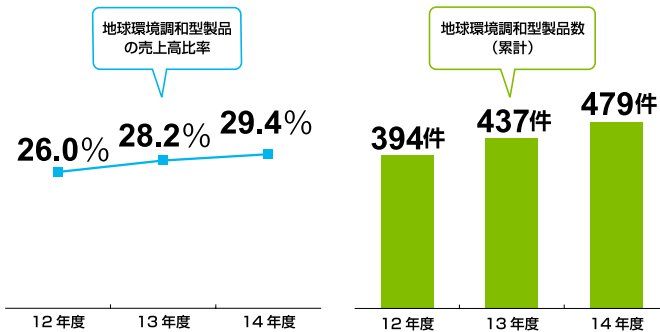
道路灯、街路灯
灯具のLED省電力化



地球環境調和型製品の売上高比率と新製品数

製品売上高比率は29.4%、新製品数は42件

当社グループは、事業活動を通じた環境負荷低減への取り組みとして、地球環境調和型製品の開発と普及を推進しています。2014年度の地球環境調和型製品の売上高比率は29.4%であり、新製品数は42件となりました。残念ながら、ともに目標には届いておりませんが、2015年度では第5次環境3カ年計画の目標を達成するため、地球環境調和型製品の更なる開発と普及に注力していきます。

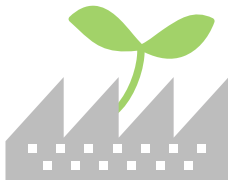


地球環境調和型製品の売上高比率は、以下の式により算出します

$$\text{地球環境調和型製品の売上高比率} = \frac{\text{地球環境調和型製品の売上高}^{(*)1}}{\text{全製品売上高}^{(*)2}}$$

(※1) 2002年度以降認定された地球環境調和型製品の当該年度の売上高

(※2) 当該年度の製品売上高合計



生産工程での環境負荷低減

生産時のゴミ低減や、使用エネルギーを低減します。



パネル部材の無溶接化

■使用例



フレックスロープ(勾配対応柵)



フレックスロープ+組立歩道



ジスラインS(離型紙レス)

■使用例



ジスラインS(自転車レーン)



ジスラインS(給電スタンド)



太陽エネルギーの利用

太陽電池使用でCO2排出量削減に貢献します。



セバレット型ソーラーLED照明灯



SLキャップ 柵支柱取付



フレックスフラッシュ



冠水対応ソーラー照明灯



ソーラールミ T-II



ポールコーンルミ

公共分野

交通環境資材事業

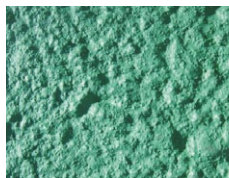


水性カラー塗料「ジスカラーアクア」

通学路、生活道路の安全対策に適した、水性で環境に優しい塗料です。



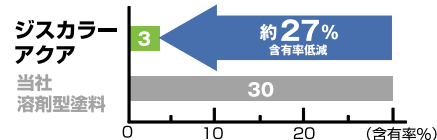
■標示表面



骨材を混入することで雨天時に歩行者が滑りにくい仕様としています。

■VOC含有量

VOC(揮発性有機化合物)含有率が溶剤型塗料に比べ少なく、環境に優しい仕様としています。



※上記数値は試験結果の一例となります。

スポーツ施設事業



アクアグループ設置

高速排水システム人工芝「アクアグループ」

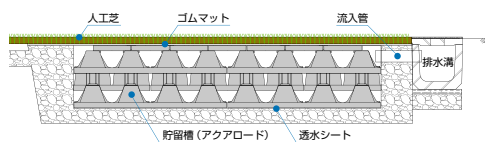
集中豪雨対策

優れた排水性能が、降雨後の速やかな使用を可能にした人工芝排水システムです。集中豪雨時には雨水を一次的に貯留し、雨水の流出を抑制する機能を有しています。



アクアロード

貯留浸透で集中豪雨対策

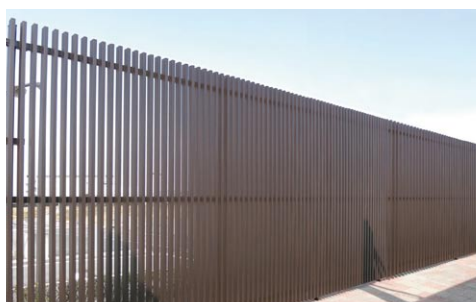


人工芝フィールドの下(外周)に貯留浸透槽を構築するアクアロードは空隙率が92%であり、砕石トレンチの空隙率40%と比べても2.3倍の貯留量が確保できます。

(積水化成産品工業株式会社との共同開発)

民間分野

住建事業



木目調縦格子フェンス「ETW-1H 高尺タイプ」

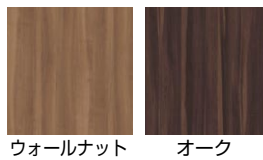
長寿命化でゴミ低減

木の暖かみのある外構用縦格子柵です。

高さ3000mmまで対応可能な木目調の高尺縦格子柵です。外構空間に木の暖かみを演出し、高耐久な素材のため長期間メンテナンスが不要です。

木目パターン
格子色は2色から
選択可能です。

アルミ押出型材
+
オレフィンシート



アルミ+スチールハイブリッド構造で高強度を実現しています。

人工木・建材事業



H4500仕様 仮囲いパネルでは初めての高さ4500mm仕様を開発した事で、より深刻な騒音対策にも貢献します。

※本製品でいう「防音」とは、仮囲いで囲まれた空間から仮囲いを透過する騒音を低減する効果をいいます。

仮囲いパネル「防音アフィラウォール」

騒音低減

遮音パネルと吸音材+パンチングパネルを組み合わせた新世代の防音仮囲いパネルです。



周辺環境に配慮した製品として様々な工事現場でお役に立てます。

■セルフクリーニング機能

塗膜表面の親水性作用により、雨水で「汚れが落ち易く」、使用後のパネル洗浄時においても、流水で「汚れが落ち易い」ことが特徴です。

■保管・運搬の効率UP

段付き形状設計により、平積みによる保管・運搬が可能になりました。

(積水樹脂プラメタル株式会社)

景観資材事業



充電インフラ整備向け「EVステーションシェルター」

CO2
削減

EV充電インフラ整備の快適性、安全性を向上します。

電気自動車の充電施設に最適なサイズ、構造のシェルターです。雨水を防ぎ、充電中の安全性の向上に貢献します。

■夜間照明

省電力のLED灯具を天井面に標準装備しています。



■側面、路面サイン

利用車両を案内します。

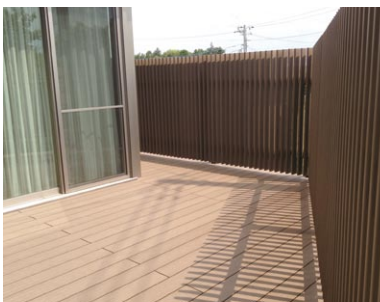
■硬質弾性ポラード

車両接触から充電設備を守ります。

【EV充電インフラのニーズ】に対応

- ①充電器の利便性・安全性を確保
- ・夜間に照明が届く
- ・雨水がかからない
- ②充電設備の位置を明確にするサイン
- ③ガソリン車の駐車による、充電できないことを防ぐ
- ④自動車の接触による充電器の損傷を防ぐ対策
- ⑤故障時の連絡先の記載
- ⑥充電可能な車種が確認できる

人工木・建材事業



人工木材「角型テnderウッド」

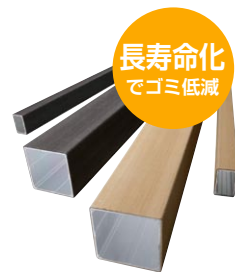
木の温もりを持ったハイブリッド材料です。

天然木に替わる建築材料として、自然な木質感と長寿命の両立を実現した進化形素材「角型テnderウッド」を提案。地球にやさしい技術と品質で、魅力ある住環境づくりをサポートします。

高耐候性 特殊樹脂配合により経年変化に強い

強度部材 強度計算が必要なルーバーや構造部材にも利用可能

超軽量 アルミ型材に木質樹脂を被覆成形したハイブリッド素材なので天然木と比べ軽量



長寿命化
でゴミ低減

アルミ型材に木質樹脂を被覆成形。木の表情と質感で超軽量＆高強度を実現。

総合物流資材事業



高強度PETバンド「HSテナックス HS2625」

廃棄物
削減

重量物の結束が可能で高強度バンドです。帯鉄からの置き換えにより廃棄物の低減が可能です。

■帯鉄と比較して耐候性に優れ、錆びません。(1~2年の屋外保管では帯鉄のように再梱包の必要がありません。)

■帯鉄からの切り替えにより結束材使用量が重量で約1/4になります。

結束機によるパイプレーション溶着
バンドとバンドの摩擦熱でバンドを溶かし接着させます。ハサミで切れますので開梱作業も低減します。



ハンディタイプ結束機BXT2

デジタルピッキングシステム
「アンサーキットACC10・ACC18シリーズ」

CO2
削減

表示器の電源回路を見直すことで、消費電力を従来機種より約30%低減しました。

■セグメントLEDによる高い視認性

新設計の電源回路により、高輝度の7セグメントLEDを使用した従来機種と変わらない高い視認性と、消費電力従来比約30%低減という省電力性能を両立させました。

■高い互換性

従来機種と変わらない外観及び互換性をもっており、従来機種との併用が可能です。

(積水樹脂キャップアイシステム株式会社)



エネルギー使用量、CO₂・廃棄物排出量削減を環境経営の重要課題と位置づけ、生産・オフィス部門でさまざまな取り組みを行っています

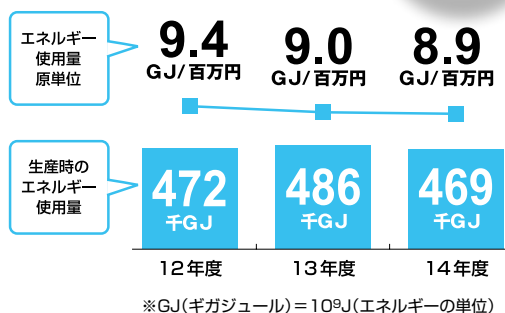
生産事業所のエネルギー使用量、CO₂排出量削減への取り組み

**エネルギー使用量原単位4.7%削減、
CO₂排出量原単位5.0%削減 (2012年度比)**

生産事業所において、生産プロセスや空調・照明設備等の改善・適正管理を行い、生産時のエネルギー使用量や、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。2014年度は、2012年度比でエネルギー使用量原単位4.7%、CO₂排出量原単位5.0%削減しました。今後も、生産プロセスの改善や省エネ設備の導入、エネルギーの見える化・節電対策など、ハード・ソフトの両面から、省エネ活動の強化をはかっていきます。

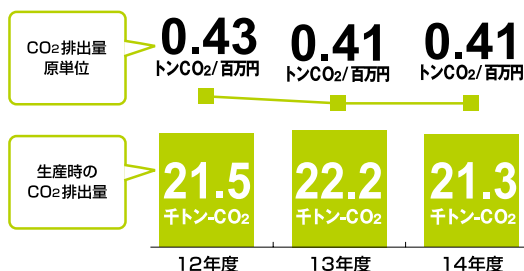
生産時の
エネルギー使用量と
原単位

原単位
4.7%
削減



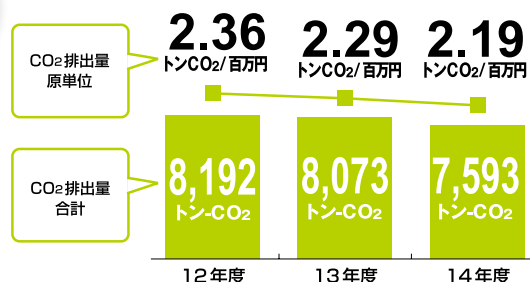
生産時のCO₂排出量と原単位
国内事業所

原単位
5.0%
削減



生産時のCO₂排出量と原単位
海外事業所

原単位
7.3%
削減



(注)海外生産事業所においては、売上高を基準年(2012年)の為替レートで円換算し、原単位を算出しています

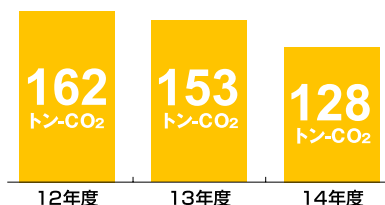
オフィスにおける省エネルギーの推進

オフィスのCO₂排出量21.2%削減 (2012年度比)

オフィスにおいても省エネ・節電の取り組みを推進しています。2014年度は、本社オフィスにおいて、照明設備を全面的にLED照明に更新いたしました。これにより、オフィス部門におけるCO₂排出量を大幅に削減することができました。

オフィスのCO₂排出量

排出量
21.2%
削減



TOPICS 「フロン排出抑制法」(※1)への対応

フロン排出抑制法が2015年4月より施行され、フロン類が充填された業務用冷凍空調機器の管理(簡易点検等)が義務付けられました。積水樹脂グループでは、2014年度よりオフィス部門も含めた全事業所の業務用冷凍空調機器のリストアップを行い、2015年4月より、フロン類の漏洩未然防止のための管理(簡易点検等)を開始しています。

(※1)フロン排出抑制法:正式名称「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」



PRTR法 対象化学物質排出量・移動量削減への取り組み

PRTR法(※1)対象化学物質を原単位で3.7%削減(2012年度比)

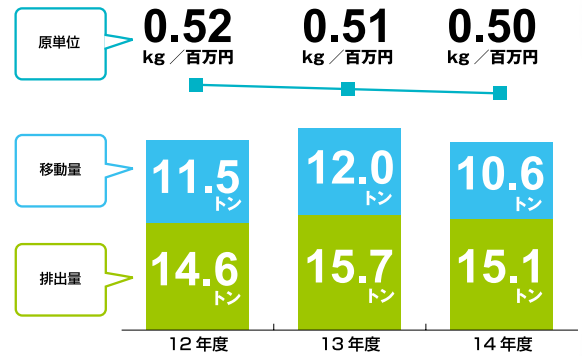
PRTR法 対象化学物質の削減のために、対象化学物質の非含有タイプ原材料への切り替えや、製造プロセスにおける使用効率の改善などに取り組んでいます。また、当社グループ共通の化学物質管理の指針を策定し、グループ全体で、化学物質の使用量管理、紛失・盗難防止の強化にもつとめています。2014年度のPRTR法 対象化学物質排出量・移動量(原単位)は、2012年度比で3.7%削減となりました。

(※1)PRTR法

PRTR法とは正式名称を「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」といいます。人の健康や生態系に有害なおそれがある化学物質について環境中への排出量及び廃棄物に含まれての移動量を事業者が自ら把握して、行政に報告し、さらに行政は事業者からの報告や統計資料を用いた推計に基づき排出量・移動量を集計・公表する制度です。

原単位
3.7%
削減

PRTR法 対象化学物質排出量・移動量と原単位



生産事業所における廃棄物削減の取り組み

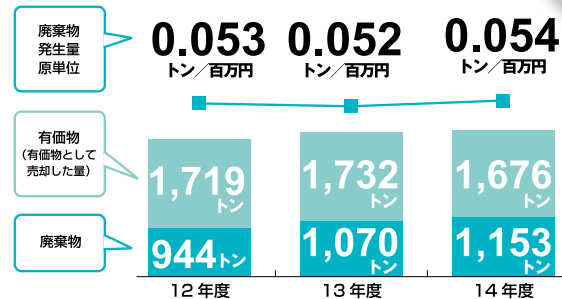
有価物も含めた廃棄物の削減に取り組んでいます

2010年度より、「排出物」の削減を目的として、有価物を含めた廃棄物の削減目標を設定し、取り組みを行っています。各生産事業所においては、生産工程における歩留まり改善、不良率の低減活動を推進しましたが、生産品種対応に伴う品種替えロスなどの影響で2014年度における廃棄物排出量原単位は2012年度比で1.6%増加となりました。

更なる「3R」(Reduce: 廃棄物の発生抑制、Reuse: 再使用、Recycle: 再資源化)活動を継続し、排出物の削減につとめます。

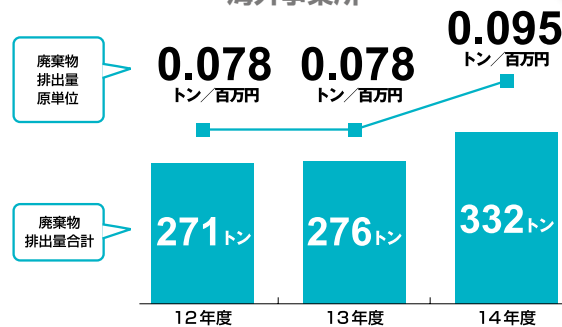
原単位
1.6%
増加

廃棄物排出量と原単位 国内事業所



原単位
22.4%
増加

廃棄物排出量と原単位 海外事業所



場内循環利用
1,045トン

排出量
3,874トン

有価売却
1,676トン

再資源化
1,086トン

社内焼却
0トン

埋立・焼却
67トン

廃棄物 **1,153トン**

【廃棄物排出量・原単位増加の要因】

Sekisui Jushi (Thailand) Co.,Ltd.では、取扱製品の一部原材料について、以前は取引先から材料支給を受けており取引先が廃棄物の回収を行っていましたが、2014年度より自社調達へ切り替え、廃棄物を自社で処分することとなり、廃棄物処理量・原単位が増加しました。

(注)海外生産事業所においては、売上高を基準年(2012年)の為替レートで円換算し、原単位を算出しています。

使用済製品の回収・リサイクルによりCO₂の削減に取り組んでいます

広域認定制度を活用した公共用製品のリサイクルへの取り組み

使用済みの樹脂製視線誘導標を 144.4トン回収・再生(2008~2014年度累計)

積水樹脂は、資源の有効利用・廃棄物削減のため、当社独自素材であるジスロンパイプを使用した樹脂製視線誘導標(デリニエーター・スノーポール)について広域認定制度の認定を取得しています。

(認定日:2008年6月12日、認定番号:第145号)

広域認定制度に基づくリサイクルシステムを構築し、使用後廃棄処理される樹脂製視線誘導標を、再度、原料として活用することで、建設廃材を他分野に流出させず、確実な環境負荷低減をはかっています。

CO₂排出量を81.3トン(※1)削減 (2008~2014年度累計)

使用済品の回収から再生原料化の過程で発生するCO₂は、バージン原料製造(資源採掘・採取から原料製造)の過程で発生するCO₂の約半分です(※2)。

広域認定制度に基づくリサイクルを実践することで、CO₂排出量削減にも貢献しています。

回収・再生
144.4トン
2008~2014年累計

CO₂ 排出量
81.3トン削減
2008~2014年累計

(※1)

広域認定に基づくリサイクルの対象製品

デリニエーター

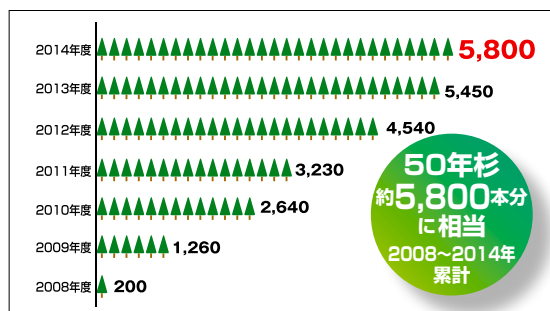
スノーポール



広域認定制度とは?

製品が廃棄物となったものであって、当該廃棄物の処理を当該製品の製造、加工、販売等の事業を行う者が広域に行うことにより、当該廃棄物の減量その他その適正な処理が確保されることを目的として、廃棄物処理業に関する法制度の基本である地方公共団体毎の許可を不要とする特例制度です。

CO₂排出削減量 年間累積合計 50年杉換算(本)(※3)



(※1) CO₂削減量は、再生原料(樹脂)重量(2008~2014年度実績:112.9t)に、(※2)のCO₂排出量の差(0.72kg)を乗じて算出しています。

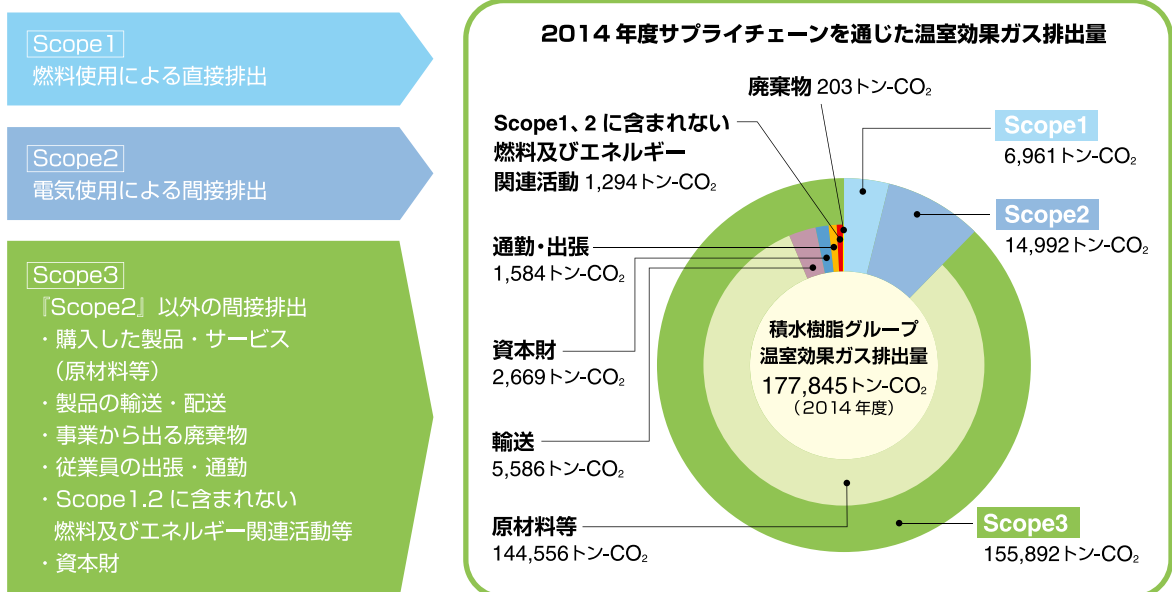
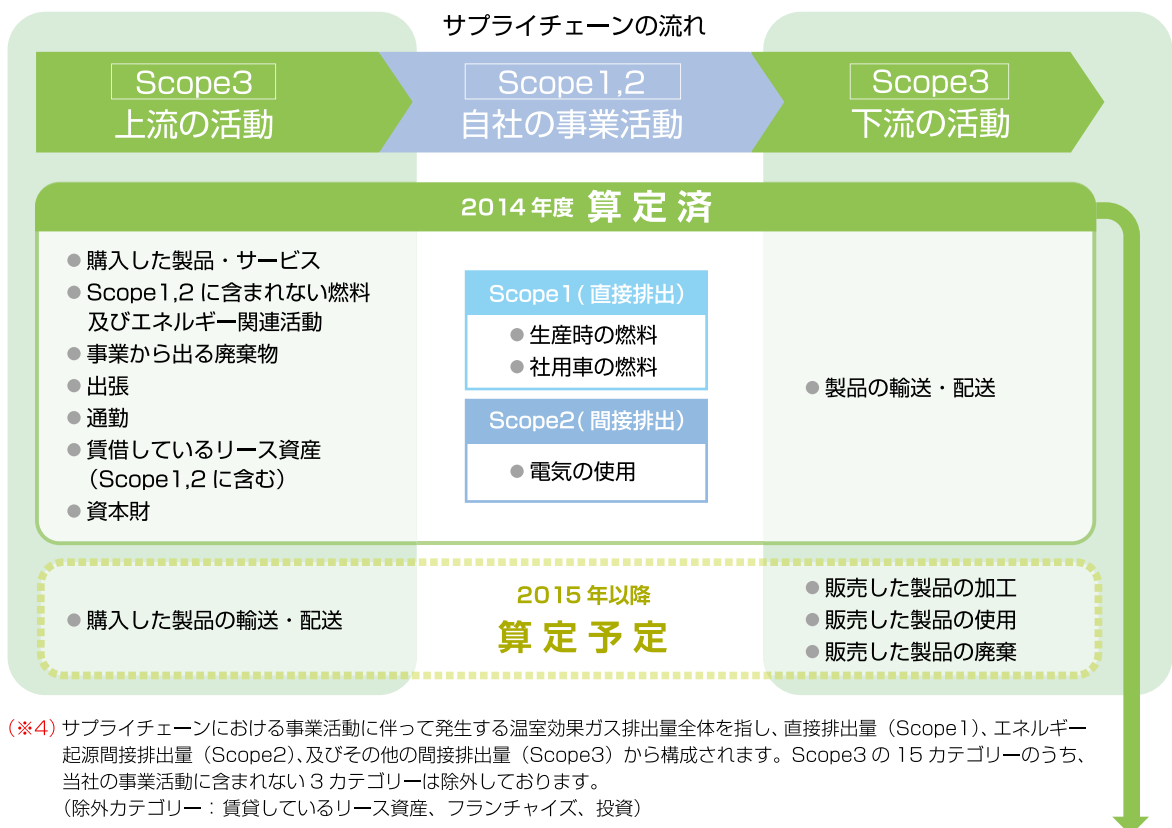
(※2) バージン原料1kgあたりのCO₂排出量:1.43kg(プラスチック廃棄物の処理・処分に関するLCA調査研究報告書(プラスチック処理促進協会)より)
再生原料1kgあたりのCO₂排出量:0.71kg(2008年度の回収・再生実績を基に各工程でのCO₂排出量を算出)

(※3) 50年生のスギ人工林1本当りの年間二酸化炭素吸収量を約14kg(岐阜県の収獲予想表に基づく試算値)として試算しています。
(「地球温暖化防止のための緑の吸収源対策」環境省・農林水産省 林野庁作成のパンフレットより抜粋。)

TOPICS

サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量^(※4)の把握

地球温暖化防止のためには、『自社の事業活動範囲』の温室効果ガス排出量把握・削減だけでなく、『サプライチェーン全体』を通じた温室効果ガス排出量の把握・削減への取り組みが重要となっています。積水樹脂グループでは2013年度より、「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン(環境省・経済産業省)」に基づき社内算定基準を策定し、サプライチェーンにおける温室効果ガスの算定を開始しました。今後は算定範囲を更に拡大し、サプライチェーンを通じた温室効果ガスの削減に繋げていきます。



積水樹脂グループは、様々な環境活動主体と連携し、「生物多様性の保全」と「持続可能な利用」に積極的に取り組んでいます

積水樹脂グループ生物多様性保全の活動方針

積水樹脂グループは、「生物多様性の保全」を社会的責任の重要な一つと捉え、事業活動による生物多様性への負荷を認識し回避・低減することで「生物多様性の保全」及び「持続可能な利用」に努めます。

指針 1

地球環境調和型製品の開発・普及を通じて、**生物多様性の保全**に貢献します。

指針 2

省エネルギー、省資源、廃棄物・有害化学物質使用削減等に継続して取り組み、**環境負荷の低減**に努めます。

指針 3

社会貢献活動として、事業所の立地する自然環境に応じた**生態系の保全活動**を推進します。

指針 4

生物多様性に関する諸団体との連携を深めると共に、情報発信を積極的に行い「**生物多様性の保全**」の普及に努めます。

自然環境保護団体との連携及び活動支援

「国連生物多様性の10年日本委員会」への協賛

生物多様性の保全と持続可能な利用に資する活動に協賛するべく、2010年より環境省とともに「国連生物多様性の10年日本委員会」に継続して支援をおこなっています。

2014年10月にこれまでの継続的な支援が認められ、同委員会より感謝状を拝受いたしました。



同委員会のロゴマーク



感謝状

「SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク」への参画

2013年9月設立された、里山保全の全国組織となる「SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク」に設立準備段階より参画しています。これからも本ネットワークと連携し、「SATOYAMAイニシアティブ」の「普及啓発」「情報発信」「対話と実績」を進めていきます。

グローバルな環境保全活動

タイ・マングローブの植林活動

セキスイジュシタイランドは、積水化学工業(株)が2011年度から実施しているタイのマングローブ植林活動に、昨年度に引き続き本年度も参加しました。当社グループ10名を含む186名が参加し、マングローブの苗を植林しました。食用エビ養殖地の造成等により伐採が進んでいるマングローブ林の再生を通じて、漁業資源の回復や、防潮・防風、気候変動の緩和などの貢献を目指し、活動を続けています。



マングローブ植林活動の様子



事業所に生息する希少種の保護

事業所に存在する貧栄養湿地と生息する希少種の保護

当社のグループ会社である滋賀積水樹脂(株)の敷地内には、土地開発により全国的に激減している貧栄養湿地が多数残存しており、そこには環境省などから絶滅危惧種に指定された希少な動植物が多数生息しています。積水樹脂グループでは、この湿地および希少な生き物の保全を行っています。また、2013年度からは環境省で絶滅危惧種に指定されているカスミサンショウウオの生息域の保全を開始しました。



滋賀積水樹脂(株)敷地内の貧栄養湿地



はっちょうとんぼ
日本一小さいトンボ



イシモチソウ
環境省:準絶滅危惧



カスミサンショウウオ
環境省:絶滅危惧Ⅱ類



サギソウ
環境省:準絶滅危惧



サトヤマハリスゲ
滋賀県:その他重要種

カスミサンショウウオの生息域の保全

カスミサンショウウオは孵化から上陸するまでの約3カ月を水中で過ごします。敷地内の繁殖の場となっている池は、豪雨などで山から土砂が流れ込みやすく、毎年少しずつ水深が浅くなっています。そこで2014年11月には産卵に適した水域確保のため、池にたまった土砂上げを行い、カスミサンショウウオの産卵と生息域を保全しました。その結果、前年同様に8個の卵囊を発見することができました。敷地内には他にも多くの希少動植物が生息しています。今後も生き物たちとの共生を存続するために、四季を通じたモニタリング調査を行い、自然豊かな生態系の保全と事業活動の両立を進めていきます。

土砂上げ前



土砂上げ後



土砂上げをおこない、産卵場所と生息域を保全



産卵にきたカスミサンショウウオの成体(親)

滋賀積水樹脂株式会社

滋賀製造所

所在地:滋賀県蒲生郡竜王町大字西川字下中筋1321
 主要生産品目:防護柵・交通安全資材・人工木材・シェルター
 設立年月:1971年5月
 敷地面積:61,569㎡



滋賀製造所

竜王鏡製造所

所在地:滋賀県蒲生郡竜王町大字鏡字谷田731-1
 主要生産品目:メッシュフェンス・高欄・装飾建材・防音壁
 設立年月:1987年6月
 敷地面積:129,415㎡



竜王鏡製造所

活動報告

森林保全活動

2010年度より「琵琶湖森林づくりパートナー」として、琵琶湖の水源である森林の健全な保全に貢献することを目的に森林保全活動を継続しています。2014年10月に従業員・家族が協力して、間伐された木材の運搬作業を行いました。



2014年10月 森林保全活動の様子

ヨシ刈りボランティアに参加

2012年度より「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」に参加し、ヨシ刈り活動を継続しています。ヨシは琵琶湖の水質浄化、生態系保全に寄与していますが、冬の時期に枯れたヨシを刈り取らないと翌年にヨシが育たないため、行政、企業、市民団体などが、ヨシ刈りをボランティアで実施しています。2015年2月に「西の湖ヨシ刈りボランティア活動」を従業員・家族が協力して実施しました。



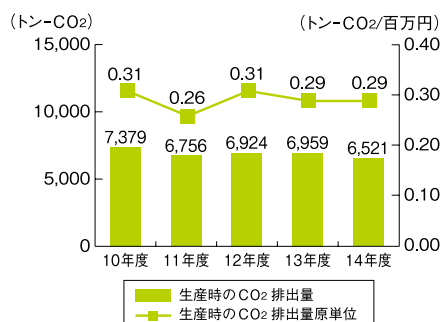
2015年2月 第3回西の湖ヨシ刈りボランティア活動の参加者

省エネ・ピーク電力削減への取り組み

2014年度は、塗装設備における硬化炉のバーナー部や排気ダクト等の改良を実施し、また、2013年度から取り組む事務所及び建屋内の照明改善(LED化)の水平展開を図り、省エネルギー化を推進しました。

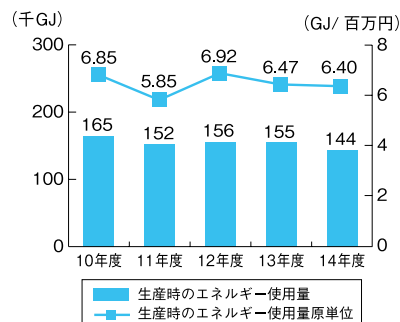
主要な環境パフォーマンスの推移

生産時のCO₂排出量と原単位

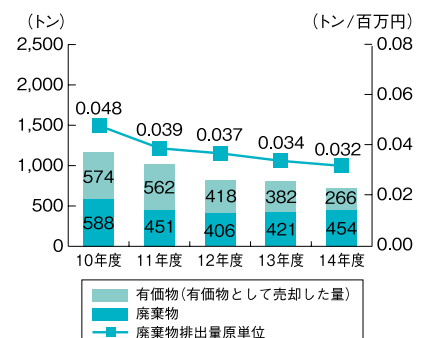


生産時のエネルギー使用量と原単位

※GJ(ギガジュール)=10⁹J(エネルギーの単位)



廃棄物排出量と原単位



土浦つくば積水樹脂株式会社

土浦製造所

所在地:茨城県土浦市東中貫町2-2

主要生産品目:路面標示材

設立年月:1968年5月

敷地面積:31,811㎡



土浦製造所

つくば製造所

所在地:茨城県牛久市桂町2200-3

主要生産品目:メッシュフェンス・手摺関連製品

設立年月:1990年5月

敷地面積:56,353㎡



つくば製造所

活動報告

省エネへの取り組み

省エネルギー活動として生産性の向上を図ることで、生産量当りのエネルギー使用量を削減することを目標に取り組んでいます。

つくば製造所の主力製品であるメッシュフェンス製造ラインにおいて、2014年度生産性向上の設備投資を行い、各製造工程において、約10%程度生産性を向上させる活動を実施致しました。各工程の生産性向上により、年間での電気使用量削減効果は、約80,000kwhとなり、大きな省エネルギー効果となりました。

安全への取り組み

2014年10月に「茨城県産業安全衛生大会」が実施され、「茨城労働基準協会連合会長表彰(事業場部門)」に表彰されました。つくば製造所では、無災害日数が5,000日以上となり、安全への取り組みを評価して頂きました。この表彰を契機に更なる安全の向上と無災害を継続していきます。



茨城労働基準協会連合会長表彰の様子と表彰状

環境貢献活動

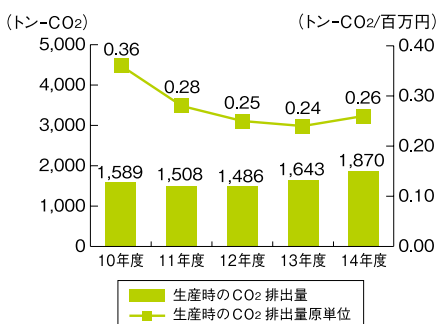
2015年3月に「第83回霞ヶ浦・北浦地域清掃大作戦」に参加しました。26団体約500名で土浦市霞ヶ浦文化体育館周辺及び湖岸の清掃を行いました。この活動は、1974年から霞ヶ浦問題協議会の提唱により毎年春と夏に実施されています。今後も、行政や地域社会と協力し、環境貢献活動を推進していきます。



第83回「霞ヶ浦・北浦地域清掃大作戦」参加の様子

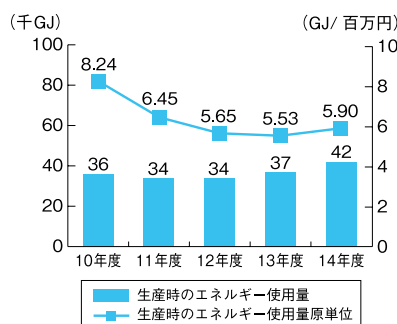
主要な環境パフォーマンスの推移

生産時のCO₂排出量と原単位

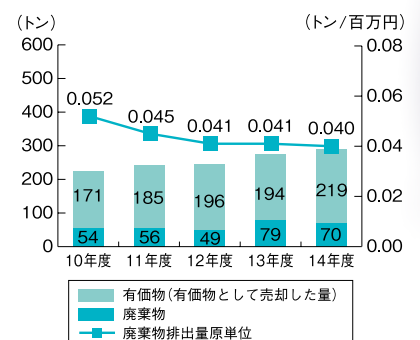


生産時のエネルギー使用量と原単位

※GJ(ギガジュール)=10⁹J(エネルギーの単位)



廃棄物排出量と原単位



【CO₂排出量・原単位、エネルギー使用量・原単位増加の要因】 生産量の大幅な増加などの影響で増加しました。

北陸積水樹脂株式会社

所在地:石川県能美市吉原釜屋町口-1
 主要生産品目:梱包資機材・農業資材
 設立年月:1972年4月
 敷地面積:68,078㎡



活動報告

企業の森づくり活動への参加

当社は、地元住民の方々と共に日本海沿岸の松林保全(再生)活動に取り組んでいます。沿岸地の松林には、日本海からの暴風や砂の飛散、潮風による塩害、砂浜の浸食などを防ぐ役割があり、先人達の知恵を受継ぎ、松苗の植樹や下草刈りによる環境保全活動を進めております。2014年度は、植樹した松苗の育成を促すために下草刈り(松葉かき)を4回実施しました。従業員と家族、また、地元住民の方々と活動を展開することでコミュニケーションを図り、里山里海保全の必要性を学びながら、立派な松林の再生に向けて活動を継続していきます。



2014年6月 日本海沿岸松林美観維持活動の参加者

道路の里親制度活動

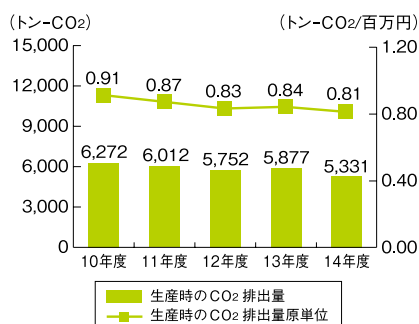
能美市では、市民と行政が協働で、市道の安全と美しく潤いのある道路環境を築いていくために、企業や団体を対象に里親制度を設けています。当社も、2012年より市道木曾街道線約150mの里親として登録し、植樹や除草作業などの活動を継続しています。



2014年4月道路の里親制度活動の様子

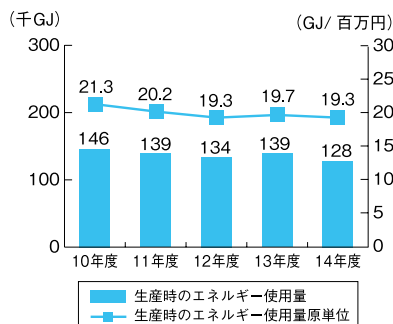
主要な環境パフォーマンスの推移

生産時のCO₂排出量と原単位

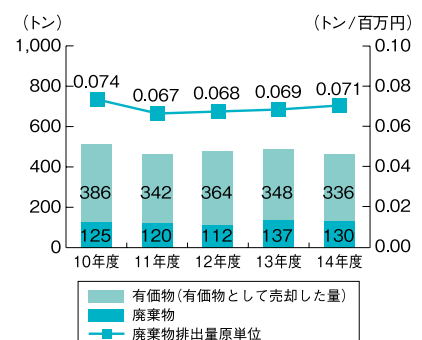


生産時のエネルギー使用量と原単位

※GJ(ギガジュール)=10⁹J(エネルギーの単位)



廃棄物排出量と原単位



積水樹脂プラメタル株式会社

本社工場

所在地:長野県上伊那郡辰野町大字小野795-1
 主要生産品目:アルミ樹脂積層複合板・機能面材
 設立年月:1966年6月
 敷地面積:20,470㎡



本社工場

関東工場

所在地:茨城県牛久市桂町2220-3
 主要生産品目:アルミ樹脂積層複合板・機能面材



関東工場

活動報告

森林保全活動

2011年に長野県上伊那郡辰野町と締結した森林(もりの)里親協定が2014年に期間満了となり、新たに3年間の協定を更新しました。2014年6月には辰野町の荒神山スポーツ公園内の町有林にて第4回森林整備体験活動を実施しました。当日は、56名が参加し最多の参加人数となりました。今後も環境保全への取り組みを拡大し、従業員の環境意識の更なる向上に向けて活動を継続していきます。



2014年6月 第4回森林整備体験活動の参加者

安全衛生への取り組み

当社にて稼働している自動機に對しまして、稼働エリアへの作業者の侵入防止による安全性の向上、自動機より発せられる騒音低下による作業環境改善として、自社にて生産している吸音材を内蔵した騒音対策用防音仮囲いパネルの設置を実施しました。さらに安全で快適な職場になるよう取り組んでいきます。



安全運転の取り組み

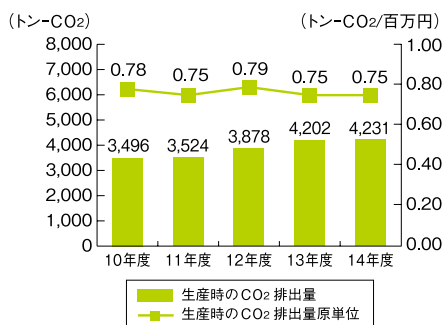
マイカー安全運転委員会を設置し、自動車通勤者の安全運転・交通事故防止に取り組んでいます。毎年、運転記録証明書を取得して5年以上連続無事故無違反者を表彰しており、自動車安全運転センター長野県事務所より優秀安全運転事業所として3年連続となる銅賞を受賞しました。これからも事故ゼロ・違反ゼロを目指して、一丸となって安全運転に取り組めます。



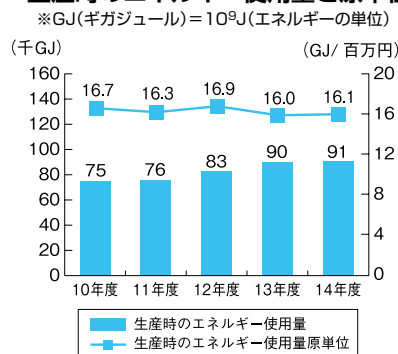
優秀安全運転事業所
3年連続 銅賞受賞

主要な環境パフォーマンスの推移

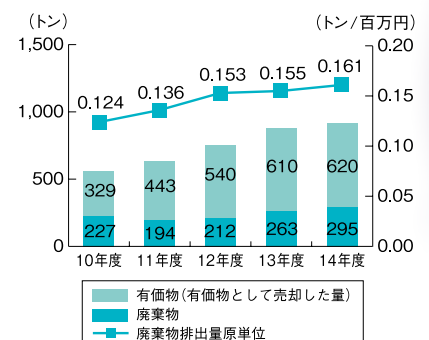
生産時のCO₂排出量と原単位



生産時のエネルギー使用量と原単位



廃棄物排出量と原単位



【廃棄物排出量・原単位増加の要因】
 生産品種対応に伴う品種替えロスなどの影響で増加しました。

Sekisui Jushi Strapping B.V. (オランダ)

所在地: Ringweg 50, Industriepark Roerstreek Noord 7866 6045
JL Roermond The Netherlands

主要生産品目: 梱包用結束バンドの製造

設立年月: 1974年1月 敷地面積: 30,000㎡



Sekisui Jushi Strapping B.V.

活動報告

省エネ・廃棄物削減への取り組み

押出成形機などの生産設備を、順次インバーター式に更新していくとともに、主力製品である「印刷バンド」の生産設備(印刷機)を新規開発し、インクやシンナーなどの使用量を従来から約60%削減することができました。今後も、設備の更新を随時進めていきます。

安全衛生活動

消防署立ち合いのもと、工場からの出火を想定した消防訓練、および事業所への常設が義務づけられているAED(自動体外式除細動器)の使用訓練を継続して実施しています。これらの訓練を行うことで、災害時に対処すべき一連の動作を習得することができ、従業員の安全衛生意識の更なる向上につながりました。



AED使用訓練の様子

Sekisui Jushi(Thailand) Co.,Ltd. (タイ)

所在地: 700/743 Moo 1 Amata Nakom Industrial Estate, Tambol Panthong
Amphur Panthong, Chonburi 20160, Thailand

主要生産品目: 自動車部品関連製品の製造・販売及び射出成形金型の製造・加工・販売

設立年月: 2004年1月 敷地面積: 32,000㎡



Sekisui Jushi (Thailand) Co.,Ltd.

活動報告

安全衛生活動

当社は樹脂を多量に扱っており、万が一火災が発生した場合の初期消火が非常に重要になります。そこで、年1回外部講師を招いて消防・避難訓練を実施しています。各部門より入社間もない者を優先に初期消火講習、消火訓練の実施、全従業員による避難訓練を日勤者、夜勤者と同日に2回実施しています。継続して実施することにより全従業員への啓蒙強化に取り組んでいます。

また、全社員を対象にした健康診断を年1回実施し、従業員の健康管理啓発に取り組んでいます。



消防・避難訓練の様子

交通安全への取り組み

長期休暇の前に交通安全のパンフレットを配布しています。タイでは長期休暇に田舎に帰省することが多く、その際の交通事故が多発しています。交通法規を遵守・徹底するように取り組んでいます。



交通安全啓蒙活動の様子

Summit Strapping Corporation (フィリピン)

所在地: Phase II Lot 11 Carmelray Industrial Park Canlubang,
Calamba, 4027 Laguna, Philippines

主要生産品目: 梱包用結束バンドの製造・販売

設立年月: 1997年3月 敷地面積: 31,600㎡

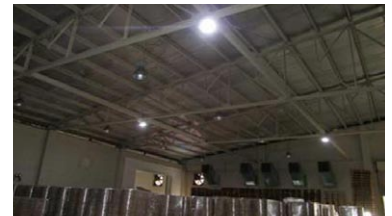


Summit Strapping Corporation

活動報告

省エネ・廃棄物削減への取り組み

順次、倉庫内の白熱電球をLED電球へ交換するなどの節電への取り組み、オフピーク電力の積極利用や製造ライン立ち上げ方法の見直しによるピーク電力の低減は昨年に引き続き実施しています。また、廃棄物を分別し、資源としてのリサイクルや、原料購入時のパレットを自社製品出荷時に再利用するなど廃棄物の削減も継続して実施しています。



倉庫内の電球をLEDへ

安全衛生活動

火災・地震時の避難訓練や緊急時対策のセミナー・トレーニングを年2回実施しています。継続して実施することにより、安全認識活動の強化に取り組んでいます。



消火訓練セミナーの様子



停電時を想定した避難訓練の様子

品質管理活動

品質管理活動により生産設備における問題箇所を早期改善し、品質改善へとつなげています。2014年度の主な活動としましては、バンドラインのバンド切れ及び、ラベルはがれトラブルの改善などを実施しました。

DATA

海外事業所の環境負荷データ

	Sekisui Jushi Strapping B.V. (オランダ)					Summit Strapping Corporation (フィリピン)				
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
CO ₂ 排出量(トン)	3,187	3,086	3,160	3,192	3,226	1,688	1,956	2,170	2,140	1,737
廃棄物排出量(トン)	30.00	35.00	30.00	40.00	34.90	47.50	35.70	40.45	46.56	40.20
水使用量(トン)	2,929	2,523	2,497	2,076	2,518	14,430	19,531	11,730	6,185	6,313

	Sekisui Jushi (Thailand) Co.,Ltd (タイ)				
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
CO ₂ 排出量(トン)			2,862	2,742	2,630
廃棄物排出量(トン)			200.20	190.02	256.40
水使用量(トン)			9,000	11,005	13,279

※2011年7月より当社グループ参入のため、2012年度よりデータ取得の対象としました。

社会性報告

これからも社会から信頼され続ける企業であるために

積水樹脂グループは企業の社会的責任(CSR)を果たすため、企業人としてどのように行動すべきかを定めた「積水樹脂グループ企業行動指針」に基づき、CSR活動を進めています。

積水樹脂グループ企業行動指針

<人権の尊重>

1. 国内・外を問わず人権を尊重し、平等・公平に行動するとともに、従業員のゆとりと豊かさを実現し、安全で働きやすい職場環境を確保します。

<社会的責任>

2. 顧客のニーズにかなう安全な製品・サービスを提供するとともに、正しい製品情報を適確に提供し、顧客の信頼と満足を獲得します。
3. 公正かつ適正な取引関係の上に取引先との信頼関係を築き、相互の発展を図るとともに社会的信頼を高めます。
4. 株主はもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示します。

<法令等の遵守>

5. あらゆる企業活動において法令・社内ルール等を遵守し、公正な企業活動を遂行します。
6. 個人情報や会社の機密情報は厳正に管理します。
7. 政治・行政とは健全かつ透明な関係を維持します。

<反社会的勢力への対応>

8. 社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは関係を持ちません。

<社会・環境との調和>

9. 国内・外を問わず、その文化や習慣を尊重し、地域社会との共生を目指します。
10. 環境問題への取り組みは企業の存在と活動に必須の要件であることを認識し、積極的に推進します。



鹿児島県鹿児島市

青少年の育成を目的とした社会貢献活動

「積水樹脂サッカースクール」を開催

積水樹脂は、当社創立60周年記念事業の一環として、2013年4月から2014年7月にかけて全国7カ所の当社人工芝の納入グラウンドにおいて、地域のサッカークラブに所属する小学生を対象に、元サッカー日本代表の釜本邦茂さんを講師とする「積水樹脂サッカースクール」を開催しました。合計約1,400名の方々にご参加いただき、スポーツを通じて青少年の育成を図るだけでなく、当社への理解を深めていただく貴重な機会となりました。今後も青少年育成に向けた取り組みを積極的に進めていきます。



京都府京都市



宮城県石巻市



北海道札幌市



大阪府吹田市



大阪府堺市



合計
約1,400名
参加

山口県大島郡周防大島町

開催実績 (2013年4月から2014年7月まで)

回次	開催日	場 所	参加者数
第1回目	2013年 4月20日	京都府京都市 宝が池公園運動施設球技場	約200名
第2回目	2013年 7月25日	宮城県石巻市 上釜ふれあい広場サッカー場	約100名
第3回目	2013年 7月26日	北海道札幌市 東雁来公園サッカー場	約150名
第4回目	2013年11月10日	大阪府吹田市 万博記念公園サッカー場	約300名
第5回目	2014年 4月27日	大阪府堺市 J-GREEN 堺	約340名
第6回目	2014年 5月31日	山口県大島郡周防大島町 長浦スポーツ海浜スクエア	約130名
第7回目	2014年 7月13日	鹿児島県鹿児島市 鹿児島ふれあいスポーツランド	約200名

様々な社会貢献活動を通して、社会との絆を深めていきます

事業と関連する社会貢献活動

交通遺児育英会への寄付を継続

2011年より、交通安全に携わる企業として「公益財団法人 交通遺児育英会」に対し、車線分離標「ポールコーン」の収益の一部を寄付する取り組みを継続して行っています。この活動が認められ、3年連続(2012年、2013年、2014年)で褒状を授かりました。



褒状授与の様子



公益財団法人 交通遺児育英会
ホームページアドレス
<http://www.kotsuiji.com/>



車線分離標「ポールコーン」

道路上のゼブラゾーンや中央線上などに設置する柱状の製品で、走行レーンの明示、車線の分離、カーブ地点などでの視線誘導を行います。本体はウレタン製で車両の接触時にも速やかに自立復帰します。開発、製造開始から四半世紀が経過し、その高い復元性能や視認性からご好評いただいている、交通安全用品の主力製品です。

ポールコーン製品ホームページアドレス
<http://www.sekisuijushi.co.jp/products/traffic/product/preservation/>



ポールコーン



ポールコーンガード

製品の端材を活用した社会貢献活動

地域の小中学生に「反射シール」を寄贈

東北積水樹脂(株)は、交通安全製品に携わる企業として、通学路での交通事故の防止を目的に、2013年から継続して同社が立地する宮城県柴田郡柴田町内の小中学生を対象に、「反射シール」を寄贈しています。

この「反射シール」は、道路標識などの交通安全製品を製造する際に発生する端材を加工し、作成したものです。

この活動が、教育・文化の振興に貢献したとして、2014年11月に、柴田町長より感謝状を授かりました。



かばんや自転車などに貼ることで、夜間の交通事故を防止します



柴田町長から頂いた感謝状

地域社会への貢献

環境・美化運動の実施

かねてより、当社グループでは、各生産事業所において、事業所近辺の環境・美化活動を定期的に行っていました。2014年は活動範囲を拡大し、各生産事業所だけでなく、本社、事業部、各支店・営業所においても環境・美化運動を行いました。この活動により、地域社会の美化に貢献することができただけでなく、当社グループの従業員が地域社会への貢献の重要性をより意識する機会となりました。



環境・美化活動の様子(中部支店)

地域の行事への参加・協賛

各事業所が立地する地域で行われている行事に参加・協賛することで、地域社会とのコミュニケーションをはかっています。

■主な地域行事への協賛

- ・牛久市かっぱ祭り(茨城県)
- ・牛久市ワイワイ祭り(茨城県)
- ・辰野町ほたる祭り(長野県)
- ・辰野町さくら祭り(長野県)
- ・ふれあい東城祭り(広島県)
- ・祖生ふるさとまつり(山口県)

気軽に取り組むことができる社会貢献

TABLE FOR TWOプログラムへの参加

当社の大阪本社及び近畿・北陸支店は、「TABLE FOR TWOプログラム」に参加しています。対象となる食事や飲料を購入するだけで、購入金額の一部をTABLE FOR TWOを通じて、アフリカの子どもの給食として、気軽に寄付することができます。



「BOOK MAGIC」への参加

大阪本社では、2011年8月から、「BOOK MAGIC」を定期的に行っています。「BOOK MAGIC」とは、不要な本やCDを売却し、その売上をNPO法人JENに寄付することで開発途上国の教育サポートプログラムに役立ててもらおう取り組みです。



皆様とのコミュニケーションをCSR活動に活かしています

地域の皆様とのコミュニケーション

「道夢道」見学会の実施

2014年11月、滋賀積水樹脂(株)において、竜王小学校のみなさんを対象に「道夢道」見学会を開催し



ました。見学会を通じて、交通安全について楽しく学んでいただきました。



「道夢道」見学会

工場見学会の実施

地域のみなさんに、工場の活動や環境への取り組み等を理解していただくために、各生産事業所において工場見学会、製品説明会、就労体験を随時実施しています。



職場体験学習(宮崎積水樹脂株)



工場見学会(滋賀積水樹脂株)

ステークホルダーの皆様への情報発信

環境・社会報告書の発行

2002年度より環境への取り組みと実績を掲載した「環境報告書」を発行しており、2005年度より社会的活動の報告を加え、「環境・社会報告書」として発行しています。



環境・社会報告書のご紹介ホームページアドレス
<http://www.sekisuijushi.co.jp/environment/index.html>

SJC世界紀行の発行

当社創立60周年を記念して、2014年11月に、「SJC世界紀行」を発行しました。同冊子では、国内外の特色あるまちづくりの事例とともに、製品の提供を通じてまちづくりに貢献してきた当社の実績をご紹介します。



株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

決算説明会(IR)の実施

証券アナリスト、ファンドマネージャーなどの機関投資家の皆様に対する決算説明会を年2回開催しています。2014年度の決算説明会では、代表取締役より、決算内容や年度計画、中期経営計画の進捗状況などについての説明を行いました。機関投資家の皆様より、今後の当社グループの事業展開について、たくさんのご質問をいただきました。



代表取締役が決算内容等を説明

TOPICS

「新製品発表会2014」を開催しました

国内外から1,500名以上のお客様が来場

2014年11月、「新製品発表会2014」を滋賀積水樹脂(株)の道夢道において開催しました。会場には、全国各地の官公庁、マスコミなどのお客様をはじめ国内外より1,500名以上のお客様にご来場いただきました。



次世代の「安全・安心」に貢献し、「人」と「環境」に配慮した製品のご提案をテーマに

今回の新製品発表会は、『次世代の「安全・安心」に貢献し、「人」と「環境」に配慮した製品のご提案』をテーマに開催し、「R&Dプラザ」「道夢道エリア」「鏡エリア」の3会場で各種製品の性能試験、実演展示を行いました。

■ R&Dプラザエリア

基調講演



「帯状ガイドライト」を共同開発中の北海道大学 教授の萩原 亨先生をお招きし、「道路空間におけるこれからの安全・安心について」をテーマにご講演頂きました。

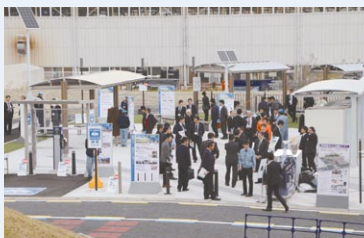
夜間視認性体感コーナー



高規格道路ゾーンを新設し、ソーラー電源式自発光製品を一堂に展示。雪道や濃霧発生時に大きな効果を発揮する「帯状ガイドライト」の性能をご体感いただきました。

■ 道夢道エリア

近未来まちづくり提案コーナー



「暑熱対策」「健康増進」「防災・減災」をキーワードとする公園リニューアルや、「電気自動車」「観光振興」等、今後のまちづくりに向けた新製品をご提案しました。

維持・補修提案コーナー



橋梁補修、ガードレール補修、道路標識や照明灯補修など、維持補修に関する製品・工法を一堂に展示しました。

■ 鏡エリア

人工芝フィールド提案コーナー



遮熱型人工芝に加え、新たにゲリラ豪雨対策として人工芝グラウンド地下貯水浸透システムや高い輝度と点灯開始時間の速さが特長のLED投光器をご紹介しました。

園芸・農業製品提案コーナー



園芸・農業関連製品や、獣害対策製品を展示、ご提案しました。獣害被害が拡大していることを背景に、獣害フェンスに対し多くご質問やご要望をいただき、その関心の高さが伺われました。



新製品発表会2014の紹介ホームページ

当社ホームページにおいて開催内容をダイジェストで紹介したムービーを公開しています。

新製品発表会2014のご紹介ホームページアドレス
<http://www.sekisuijushi.co.jp/products/2014new/>

従業員と会社が成長できる組織風土づくりにつとめています

人権を尊重した企業経営

人権の尊重

企業活動の根幹をなすのは「ひと」であり、企業の内外を問わず、その活動に関わるすべての人の人権を尊重し、これを守ることは、企業の使命です。当社グループでは、基本的人権の尊重の精神を遵守していくため、様々な研修を通して、人権問題の理解と啓発に取り組んでいます。

健全な労使関係

各事業所にて労務委員会を定期的に開催し、従業員の意見・要望が活かされるようつとめています。また、全従業員を対象に仕事へのやりがいや職場環境、人事制度に対する「自己申告」を実施し、寄せられた声から、組織の持つ強み・弱み、改善点を明らかにし、各種制度や施策に反映させています。

快適な職場環境づくり

ワーク・ライフ・バランスの推進

従業員一人ひとりの仕事と家庭との両立を支援し、多様な職場環境づくりを進めることにより、企業の持続的発展に貢献することを目指しています。年次有給休暇取得の推進を目指した「リフレッシュ休暇制度」や「育児休暇制度」、「育児短時間勤務制度」など、ゆとりと働きがいのある職場環境を創出しています。今後も、従業員一人ひとりのワーク・ライフ・バランスを重視した職場環境づくりに取り組めます。

長時間労働削減に向けた取り組み

従業員の心身の健康保持・増進に向け、仕事の抜本的な見直し等による業務効率化・生産性向上に取り組み、当社グループ全体で長時間労働の削減につとめています。

障がい者雇用

障がいのある方への雇用機会拡大と職場定着を目指し、障がい者と職場が相互に協力して能力が発揮できる環境を、今後も継続して整えていきます。

定年後の再雇用制度

定年退職者を対象に65歳まで再雇用する制度を設けています。働く意欲があれば、培ってきた知識・技術・能力を十分に活かすことができ、再雇用者と会社の双方にメリットがあります。また、定年後はゆとりある生活をしたという従業員の声を尊重し、勤務日数や時間を選択できる「サムタイム勤務制度」も設けています。

TOPICS 「アドヘヤ会」活動報告

アドヘヤ会は当社の従業員同士の親睦団体です。毎年、各事業所ごとに運動会や慰安旅行などを企画・開催しています。



各事業所の慰安旅行の様子

人材育成

個々の可能性を引き出す人材育成

SJC英語教室の開催

企業のグローバル化が進み、当社グループも経営ビジョン2020に向けてグローバル戦略を加速させるなか、海外事業展開を担う人材の育成を目的に2014年5月より東京本社・大阪本社にて「SJC英語教室」を開講しています。



英語教室の様子

海外研修制度

海外事業展開を担う人材の計画的な育成を目的に、2012年度より海外研修制度を導入しています。国際舞台で活躍したいと考える従業員を対象に毎年、社内公募で選抜し、3~6カ月の期間、海外関係会社等で研修を行っています。



研修先(Sekisui Jushi (Thailand) Co.,Ltd.)での様子

従業員・組織の活性化

仕事に誇りを持ち、自らチャレンジできる環境整備を推進

社内公募制度

従業員のモチベーションを向上させ、高い成果を期待するには、会社のニーズにおける異動だけでなく、本人の意志・適性とのマッチングをはかることが大切です。当社では、“自ら手を挙げて”チャレンジできる「社内公募制度」を導入しています。

女性の活躍推進への取り組み

積極的にポジティブ・アクションを推進し、女性の採用拡大や職域の拡大の促進につとめています。また、女性の活躍を推進する施策のひとつとして、2013年よりコース転換制度を導入しています。入社時は、主に定型的な業務やサポート業務を行う一般職(地域限定)でも、能力と意欲次第で事業の運営の基幹となる事項に関する企画立案、営業、研究開発等を行う総合職(全国転勤あり)へのコース転換を可能とする制度です。

社内表彰制度

従業員の業務活動への意欲や成果を引き出すために、業績に貢献した従業員に対して創立記念業績表彰を実施しています。



創立記念業績表彰式の様子

多面観察調査

従業員の自己啓発をはかる施策として、「多面観察調査」を実施しています。この調査では、自分の「特性」や「強み・弱み」などを客観的に認識できることから、本人に「気づき」を与え、自己成長する機会を提供しています。

全従業員が健康で安全に事業活動を推進できるよう、 職場環境づくりに取り組んでいます

積水樹脂グループ安全衛生方針

積水樹脂グループ全従業員が健康で安全に事業活動を推進できるよう、職場環境づくりに取り組みます。

指針 1

全従業員が
「安全最優先」のもと
行動します。

指針 2

労働安全衛生に関連する
法令及び各事業所で規程される
ルールを遵守します。

指針 3

安全衛生活動の
継続的改善に
努めます。

労働災害の 発生状況

2014年度は、当社グループ全体で休業災害が1件、不労災害が1件発生しました。
災害が発生した事業所では、原因を分析・究明するとともに直ちに再発防止対策を講じています。

データ種：度数率・強度率の5年間の推移は49ページ

主な取り組み

全社を挙げての安全衛生活動

当社グループ全社を挙げて労働災害の撲滅に取り組んでいます。2014年度は夏期及び年末年始無災害運動を展開し全従業員への安全意識の向上を図るとともに、場内パトロール、熱中症予防、防火点検等を通じて安全活動の強化を行いました。



積水樹脂グループ共通
夏期無災害運動ポスター

心身の健康管理の推進

全ての従業員が健康を維持していけるように、年一回の法定検診、35歳以上の従業員には法定項目に加え、より詳細な検査項目での健康診断を実施しています。また、保健師による定期的な健康相談や、生活習慣病の予防・改善を目的としたセミナーを実施するなど、従業員の健康維持・増進を支援しています。



メンタルヘルス研修



健康運動教室

事業所間安全情報の共有・改善

主要生産事業所を対象に2013年度より安全担当者による安全会議を毎月実施しています。この会議で各事業所の安全情報を共有し、好事例の水平展開やヒヤリハット・不具合部位の総点検・改善などを実施し、労働災害の未然防止に役立てています。

交通安全への取り組み

従業員の通勤・出張時の交通事故を撲滅するため、安全運転診断や、安全運転講習会、交通KYなどを実施し、安全運転技術の向上に繋がっています。



警察署による交通安全講習

外部機関による安全診断

外部機関による安全診断を、毎年、主要生産事業所を対象に実施しています。この診断で発見された不具合・指摘事項については、水平展開を含めて、速やかに是正を行い、不安全箇所の撲滅、安全な職場づくりに役立てています。



外部機関による安全診断

品質管理委員会を設置し、製品の品質向上に取り組んでいます

推進体制

品質管理委員会を設置しています

各生産事業所ごとに品質管理委員会を設置しています。この委員会では、品質改善やお客様に満足していただける製品作りのため、年度ごとに品質目標、重点実施項目、推進計画を定め、実施状況の管理・フォローを行っています。

主な取り組み

製品品質の評価・改善

大規模試験走路「道夢道」には、「走踏試験機」や「落錘試験機」、「音響測定試験棟」などの大型試験設備があります。製品開発では、これらの試験機を活用し、実物での製品安全性や耐久性の検証を行い、製品品質の評価・改善を行っています。またR&Dプラザでは、各種分析装置、耐久性試験機等を用い、素材レベルの性能を評価しています。

2014年度は、蛍光X線分析装置を新たに導入し、RoHS分析等、社会のニーズに即した分析を進めています。

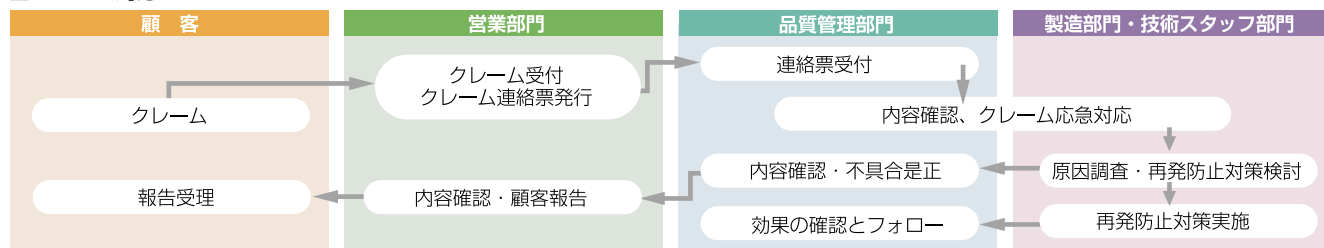


蛍光X線分析装置によるRoHS分析の様子

クレームへの対応と再発防止

お客様からのクレームは、各営業部門にて受け付けた後、品質管理部門、製造部門、技術スタッフ部門が協力して再発防止のための調査・実施を行っています。再発防止対策の実施後は、効果の確認を行い対策の妥当性を検証しています。

■クレーム対応フロー



品質マネジメントシステム体制

主要生産事業所では、ISO9001に基づく品質マネジメントシステムを構築し、認証登録を継続しています。

データ編:ISOの認証取得状況は50ページ

品質情報の共有化

クレーム発生状況やPL情報については、社内イントラネットを活用し、品質管理情報として共有化しています。また、公的な認証等を取得している製品の情報についても開示しています。

PL事故予防

PL法は、製造物の欠陥によって、人の生命、身体、財産に被害が生じた場合に、製造業者に損害賠償責任を課するものです。PL事故予防のために、以下の取り組みを行っています。

(1) 製品開発段階での危険性予測

製品に潜在的に存在する危険性を製品化の各段階でチェックし、製品設計に反映させています。

(2) 取扱説明書・カタログのPLチェック

「取扱説明書作成ガイドライン」を整備し適切な取扱説明書の作成に役立てています。また、取扱説明書・カタログの表示を事前にチェックし、使用者へ正しい安全情報を提供することにつとめています。

(3) PL社内監査

PL社内監査を毎年実施しています。PL事故予防への取り組み状況について監査し、不具合事項があれば改善の指示・指導を行っています。

経営基盤であるコンプライアンス、コーポレートガバナンス、リスクマネジメント体制の強化をはかっています

コンプライアンス

コンプライアンスの考え方

積水樹脂グループは、コンプライアンスを「法令や社内ルールを守ることはもちろん、企業倫理に基づき誠実に行動すること」ととらえ、一人ひとりが、日々の業務の中でコンプライアンスを実践しています。

コンプライアンス体制

コンプライアンス委員会

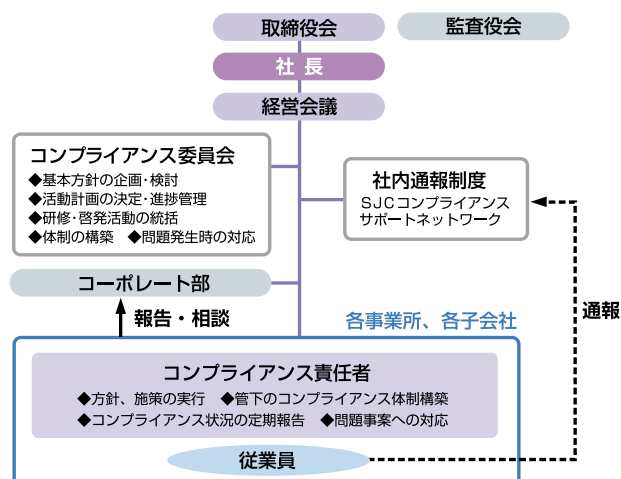
当社グループのコンプライアンスは、「コンプライアンス委員会」が統括・推進しています。

コンプライアンス責任者

各事業所および子会社に「コンプライアンス責任者」を置き、体制の維持・強化をはかっています。

コンプライアンス定期報告

コンプライアンスに関する問題の未然防止・早期発見をはかるとともに、全社的な施策の検討・実施に活用するため、「コンプライアンス委員会」が各事業所および子会社の「コンプライアンス責任者」から活動状況や課題等の報告を定期的に受ける体制を構築しています。



社内通報制度

不正、違法、反倫理行為の早期発見と迅速な是正のために、当社グループの全役員・従業員が利用できる「社内通報制度」を導入しています。なお、2015年6月から「社内通報制度」の外部の受付窓口(弁護士)を新設しました。

TOPICS

映像教材(ミニドラマ)を使った職場勉強会

日常業務の場面を通じて、コンプライアンスについて考えてもらうことを目的として、映像教材(ミニドラマ)を使用した職場勉強会を年2回実施しています。各事業所でコンプライアンスについて議論をすることでコンプライアンス活動への参加意識を高めています。2012年から開始し、これまでに合計6回実施しています。



ミニドラマ職場勉強会の様子

コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンス体制

取締役会・取締役

経営責任を明確にするため、取締役の任期を1年としています。また、社外取締役2名を選任し、取締役会における監督機能の強化と意思決定の強化をはかっています。

監査役会・監査役

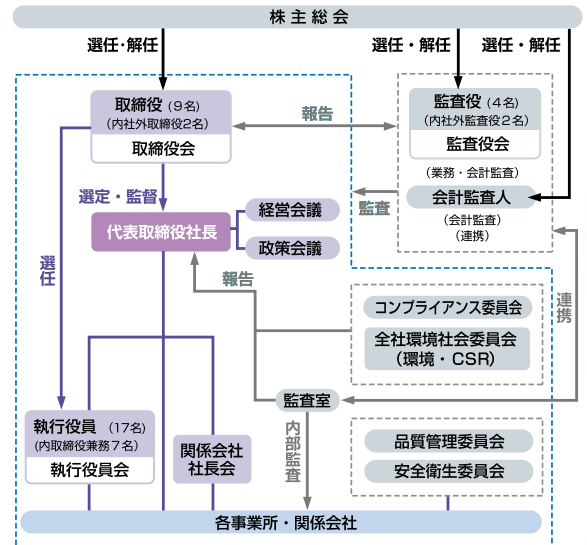
監査役会は、4名の監査役で構成しており、うち2名が社外監査役です。

経営会議

原則、常勤取締役及び議長から指名された執行役員にて構成され、常勤監査役が出席のもと毎月1回以上開催し、経営上の重要事項及び会社の業務執行方針の審議・意思決定、並びに取締役会付議事項の事前審議を行っています。

執行役員会

原則として執行役員にて構成され年6回開催し、業務執行上の重要事項の審議、取締役会並びに経営会議決定事項の周知及び執行役員の執行状況の報告、その他役員相互間の情報共有・討議を行っています。



(2015年6月26日 現在)

コーポレートガバナンス・コードへの対応

当社は、東京証券取引所が定めるコーポレートガバナンス・コードへ適切に対応し、コーポレートガバナンス体制のさらなる強化をはかっています。

リスクマネジメント

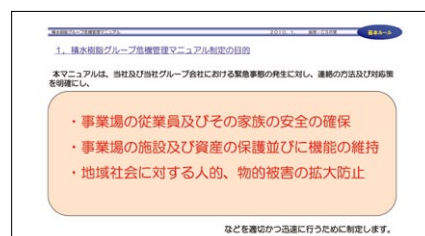
リスク管理体制

事業活動におけるリスクの発生を防止し、また、リスクが顕在化した場合に、迅速・適確な対応を行うためには、リスク管理体制の構築が不可欠です。当社グループは、経営会議で定められた方針に基づき、「品質」、「安全」、「環境」については、それぞれ該当する委員会においてリスク管理を行っています。また、他のリスクに関しては、各担当部署において業務上のリスクを認識し、リスク対応策を講じています。

項目	委員会名称	委員会の取り組み
品質	品質管理委員会	製品の品質管理に関する取り組みの推進
安全	安全衛生委員会	労働安全衛生、環境に関する取り組みの推進
環境	全社環境社会委員会	環境・社会活動に関する全社方針・計画策定・施策の審議

危機管理マニュアル

当社グループを取り巻くリスクが現実となった場合の連絡や対応の手順を明確にし、社会に対する責任を果たすとともに、会社の被害・損失の最小化と企業活動の早期回復をはかるため、「危機管理マニュアル」を定めています。このマニュアルでは、大規模自然災害、製品事故、法令違反など個々のリスクに応じて、それぞれの対応の具体的な手順を定めています。当社をとりまく環境の変化に対応するため、必要に応じて、このマニュアルの内容を見直しています。

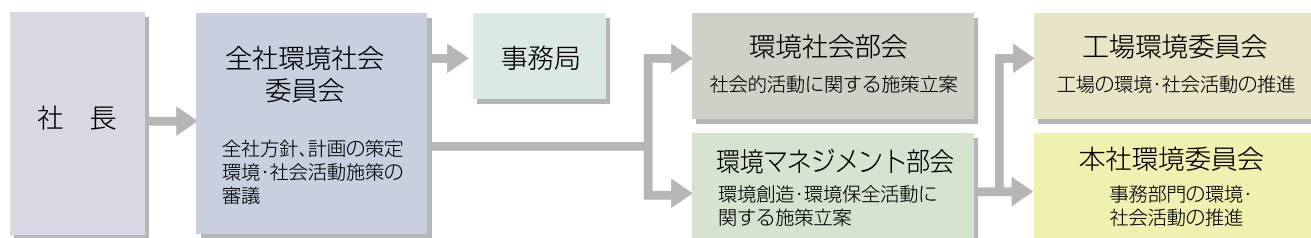


危機管理
マニュアル
の一部

データ編

環境推進体制

環境活動にあわせて社会的活動を総合的に推進するため、環境マネジメント部会において環境創造・環境保全活動に関する施策を、環境社会部会において社会的活動に関する施策を立案する体制としています。立案された施策は全社環境社会委員会において審議・決定され、施策は各事業所に伝達されて推進・実行されます。



環境活動のあゆみ

1998年	「環境経営理念」・「環境経営方針」を制定 環境経営革新運動「JEEEP」を導入
2000年	環境経営革新運動「JEEEP」の業績優秀者を表彰する制度を開始
2001年	「環境経営推進委員会」を設置 「環境経営推進委員会」を受けて「全社環境委員会」を設置 滋賀工場、石川工場、土浦つくば工場においてISO14001の認証を取得 第1次環境3ヵ年計画を策定 地球環境調和型製品基準を制定 グリーン購入基準(事務用品)を制定
2002年	環境会計を導入 環境報告書の発行を開始 石川工場においてゼロエミッションを達成 グリーン購入基準(資材)を制定
2003年	環境社内監査を開始 紙巻(コア)のない自動梱包用結束バンド「コアレス」が平成15年度資材循環技術・システム表彰 「財団法人クリーンジャパンセンター会長賞」を受賞 滋賀工場、土浦つくば工場においてゼロエミッションを達成 第2次環境3ヵ年計画を策定
2004年	広島東城工場、積水樹脂ブラメタル㈱、東北積水樹脂㈱においてISO14001の認証を取得 広島東城工場、積水樹脂ブラメタル㈱、東北積水樹脂㈱においてゼロエミッションを達成
2005年	環境面のみならず、社会面への取り組みを明確にするため、従来の全社環境委員会を「全社環境社会委員会」に変更 非生産部門の環境活動強化のため、工場環境委員会と並列して「本社環境委員会」を新規に設置
2006年	スベシア㈱においてISO14001の認証を取得 第3次環境3ヵ年計画を策定
2007年	関東積水樹脂㈱、積水樹脂電子テクノ㈱、ロードエンタープライズ㈱、積水樹脂ブラメタル㈱関東工場においてゼロエミッションを達成
2008年	積水樹脂産商㈱、三重積水樹脂㈱、宮崎積水樹脂㈱においてゼロエミッションを達成
2009年	積水樹脂産商㈱にてFSC認証を取得 国際生物多様性年国内委員会の活動への協賛 第4次環境3ヵ年計画を策定
2010年	2010年を社会貢献元年と位置づけ 各分野に対する社会貢献活動を推進 滋賀工場が滋賀県日野町綿向生産森林組合と「琵琶湖森林づくりパートナー協定」を締結
2011年	積水樹脂ブラメタル㈱が長野県上伊那郡辰野町と「森林(もり)の里親協定」を締結
2012年	石川工場が石川県能美市、道林釜屋山林組合等と「企業の森づくり推進事業協定」を締結
2013年	第5次環境3ヵ年計画を策定 「SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワーク」への参画
2014年	生物多様性の保全の取り組みとして、滋賀工場において生き物調査を開始 積水樹脂ブラメタル㈱が長野県上伊那郡辰野町と「森林(もり)の里親協定」を新たに3年間更新

環境会計

積水樹脂グループは環境保全活動に要した費用、それから得た環境保全効果とそれともなう経済効果を定量的に把握し、評価することで、より効率的な環境保全活動の推進をはかっています。環境会計の手順については、環境省の「環境会計ガイドライン」をもとに当社グループ独自の考えを加えて、共通の環境会計手順書を定めています。また、データの精度向上のために、この手順の見直しを行い、各データの算出と集計を行っています。

■ 環境保全コスト

(単位/百万円)

項目			2012年度		2013年度		2014年度	
分類	主な取り組み内容		投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額
(1)事業エリア内コスト	①公害防止コスト	公害防止対策	1	18	10	18	7	21
	②地球環境保全コスト	温暖化防止対策	67	72	74	55	39	63
	③資源循環コスト	資源投入量の削減 廃棄物の削減	10	88	31	78	28	86
(2)上・下流コスト		グリーン調達 地球環境調和型製品の特注設計	1	13	0	7	1	8
(3)管理活動コスト		環境マネジメントシステムの構築・運用 環境教育 緑化・美化・清掃活動	0	50	0	51	0	44
(4)研究開発コスト		地球環境調和型製品の研究・開発	27	97	22	118	12	87
(5)社会活動コスト		環境関連展示会への出展	0	6	0	6	0	0
(6)環境損傷対応コスト		土壌汚染、自然破壊等の修復	0	0	0	0	0	0
合計			106	344	136	331	87	310

(単位/百万円)

項目	2012年度	2013年度	2014年度
当該期間の投資額の総額	895	1,988	1,548
当該期間の研究開発費の総額	962	902	829

■ 環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス	2012年度		2013年度		2014年度	
		2012年度実績	環境保全効果(11年度との差)	2013年度実績	環境保全効果(12年度との差)	2014年度実績	環境保全効果(12年度との差)
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	電気使用量(千kWh)	36,036	218	37,559	1,523	36,130	94
	燃料使用量(千GJ)	113	2	114	1	111	▲2
生産活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する環境保全効果	生産時のCO ₂ 排出量(千トン-CO ₂)	22	1	22	0	21	▲1
	廃棄物発生量 有価物除く(トン)	945	▲33	1,070	125	1,153	208

■ 環境保全対策ともなう実質的経済効果

(単位/百万円)

効果の内容	金額		
	2012年度	2013年度	2014年度
リサイクルによる有価物売却収入	22	25	23
省資源による費用削減	162	139	134
省エネルギーによる費用削減	14	9	7
リサイクルによる廃棄物処理費用削減	6	0	2
その他	0	0	0
合計	204	173	165

対象期間:2014年4月1日~2015年3月31日 集計範囲:対象事業所は以下のとおりです

①工場

●滋賀工場 ●土浦つくば工場 ●石川工場 ●広島東城工場

②関係会社

●積水樹脂プラメタル(株) ●東北積水樹脂(株) ●積水樹脂産商(株) ●エスジェイシー寿(株) ●宮崎積水樹脂(株)
●ロードエンタープライズ(株) ●関東積水樹脂(株) ●スペースシア(株) ●サンエイポリマー(株) ●積水樹脂キャップアイシステム(株)

③上記生産事業所内に活動主体がある部門

●各事業部の開発室 ●(株)積水樹脂技術研究所 ●積水樹脂物流(株) ●オーミテック(株)
●積水樹脂電子テクノ(株)

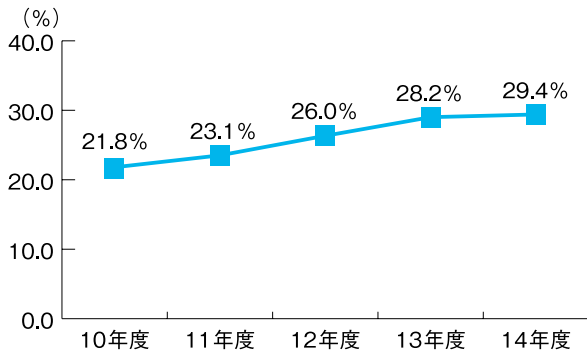
第5次環境3ヵ年計画(2013~2015年度) 2014年度の実績

◎:達成度100%以上 ○:達成度90%以上
 △:達成度90%未満 ×:達成度50%未満

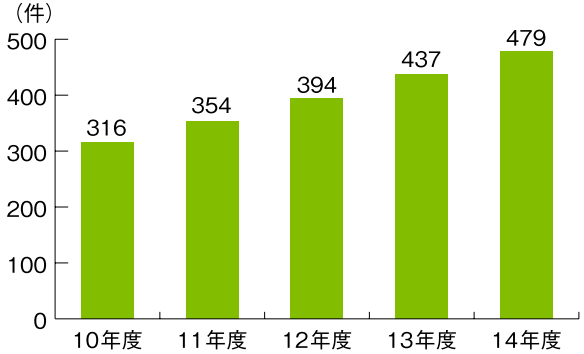
取組みの項目		第5次環境3ヵ年計画 (2015年度目標値)	2014年度実績	2014年度目標	評価		
事業・製品による 環境貢献	地球環境調和型 製品の拡大	地球環境調和型製品の 売上拡大	地球環境調和型製品の 売上高比率を35%以上	29.4%	32%	○	
		地球環境調和型製品の 開発促進	地球環境調和型新製品数 50件/年以上	42件	46件	○	
事業活動における環境負荷の低減	活動ごとの CO ₂ 排出量削減	国内生産事業所 (関係会社含む) ※関係社はオフィス部門も含む	CO ₂ 排出量を原単位で 2012年度比4.5%以上削減	5.0%	3.0%	◎	
		海外生産事業所 3拠点 ・Sekisui Jushi Strapping B.V. ・Summit Strapping Corporation ・Sekisui Jushi Thailand CO.,LTD.	CO ₂ 排出量を原単位で 2012年度比3%以上削減	7.3%	2%	◎	
		国内オフィス (支店営業所)	CO ₂ 排出量を 2012年度比1.5%以上削減	21.2%	1.0%	◎	
	営業活動による CO ₂ 排出量削減	営業車 (関係会社含む)	ハイブリット車、電気自動車の導入率80%	74.3%	70%	◎	
	省エネルギーの推進	国内生産事業所 (関係会社含む)	エネルギー使用量を原単位で 2012年度比4.5%以上削減	4.7%	3.0%	◎	
		国内輸送時	エネルギー原単位を 2012年度比3%以上削減	2.2%	2%	◎	
	資源の有効活用	廃棄物削減	国内生産事業所 (関係会社含む)	廃棄物排出量を原単位で 2012年度比6%以上削減 (場内リサイクル除く、有価含)	1.6%増加	4%	×
			海外生産事業所 3拠点 ・Sekisui Jushi Strapping B.V. ・Summit Strapping Corporation ・Sekisui Jushi Thailand CO.,LTD.	廃棄物排出量を原単位で 2012年度比3%以上削減 (場内リサイクル除く、有価含)	22.4%増加	2%	×
			国内オフィス (支店営業所)	コピー用紙使用量を 2012年度比5%以上削減	15%	3%	◎
	削減	国内生産事業所	PRTR法に基づく化学物質排出量原単位を 2012年度比3%以上削減	3.7%	2%	◎	
生物多様性への配慮	環境保全活動 環境貢献活動	環境保全活動の拡大 従業員への環境教育カリキュラムの設定 (生物多様性保全の取り組み拡大)	森林保全活動参加者(延べ人数):300名	327名	200名	◎	
			水質保全活動参加者(延べ人数):100名	53名	60名	△	
		海外拠点における環境保全活動の実施	タイ王国でマングローブ 植林活動を実施	・対象拠点の抽出 ・活動内容調査	◎		
		事業所に生息する希少種の保護	滋賀工場に生息する カスミサンショウウオの 調査・保護を開始	・希少種の調査 ・保護対象の抽出	◎		
	環境コミュニケーションの拡大	自然環境保護団体との連携、および活動支援	SATOYAMAイニシアテ ィブ推進ネットワークへ の参画開始	・現状寄付活動の維持 ・新規取り組みの調査	◎		
		地域住民との環境コミュニケーション および環境保全活動	各事業所における地域清掃 や植樹活動への参加、地元 小中学校等の工場見学及び、 就労体験の実施	・地域住民との環境 コミュニケーション および環境保全活動 の実施	◎		

主要な環境パフォーマンスの推移

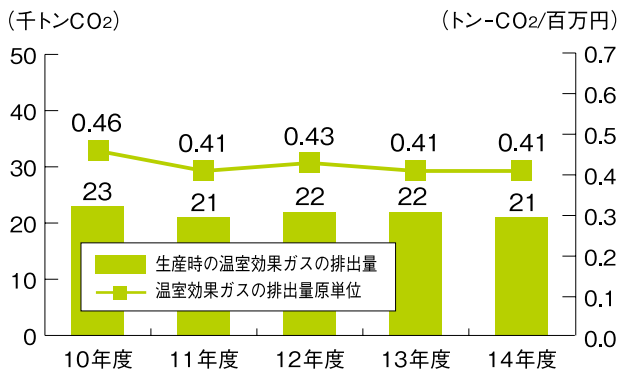
地球環境調和型製品の製品売上高比率



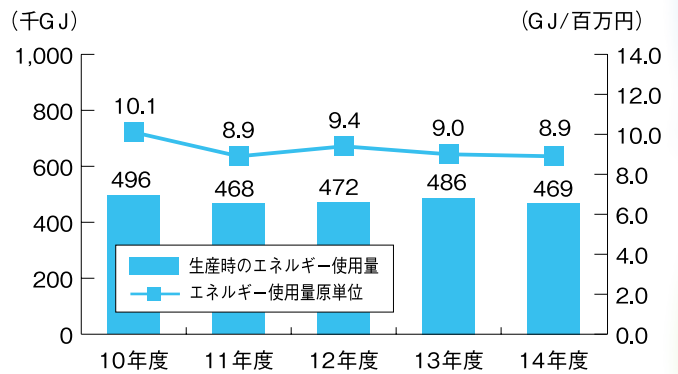
地球環境調和型製品数(累計)



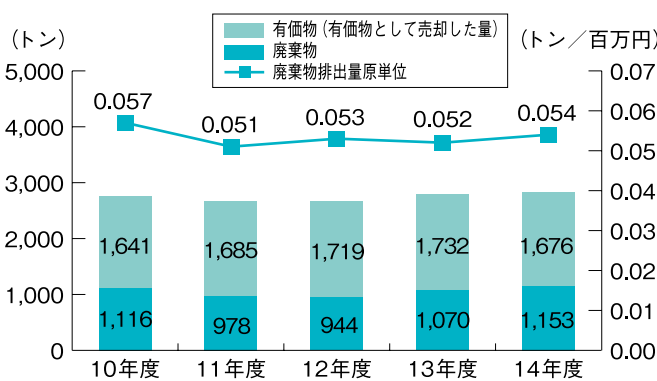
生産時のCO₂排出量と原単位



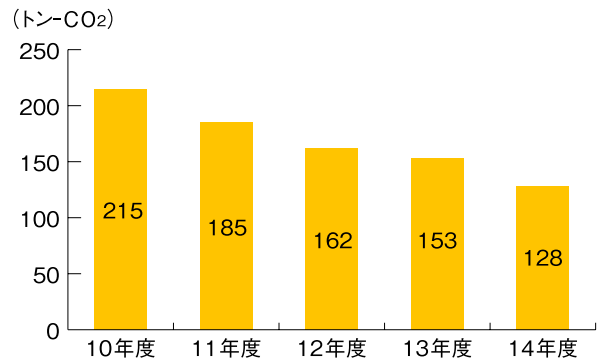
生産時のエネルギー使用量と原単位



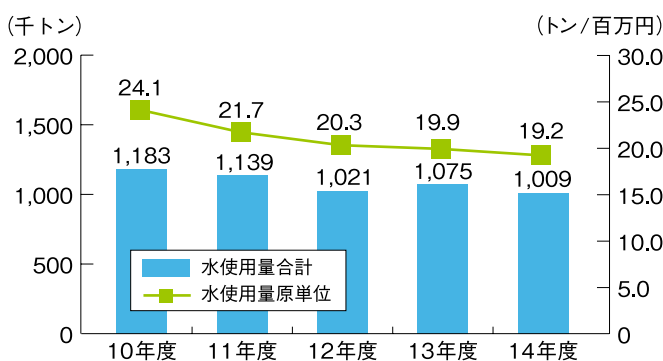
廃棄物排出量と原単位



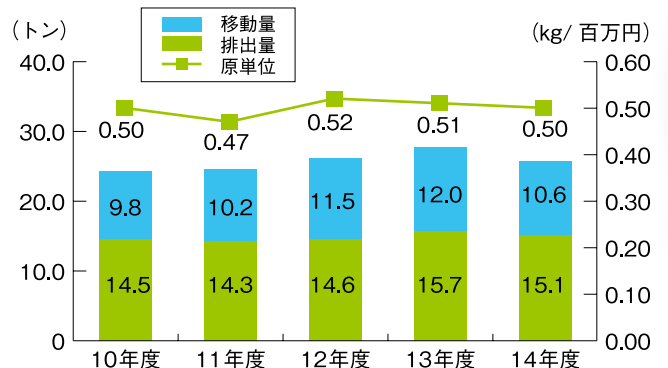
オフィスのCO₂排出量



水の使用量と原単位



化学物質排出量・移動量と原単位



データ編

2014年度のPRTR法 対象化学物質の排出量・移動量

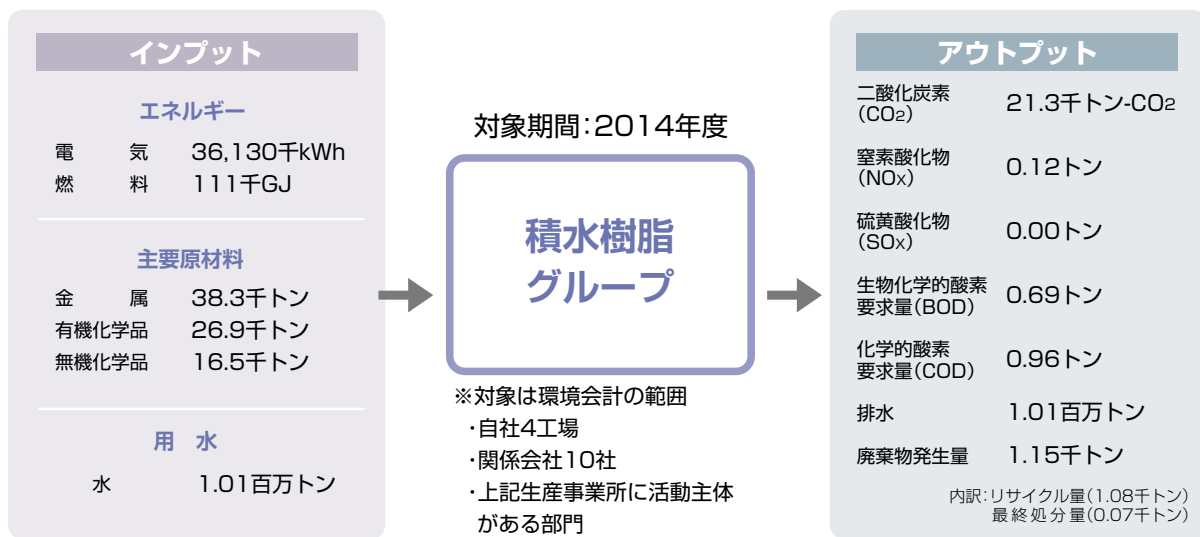
PRTR法(※1)に基づく対象物質排出量・移動量の集計結果は以下のとおりです。

PRTR対象化学物質名	単位	2014年度実績						
		取扱量	排出量			移動量		場内無害化(※2)
			大気への排出量	公共用水域への排出	当該事業所における土壌への排出	下水道への排水の移動	廃棄物の当該事業所の外への移動	
エチルベンゼン	トン	32.9	3.6	0.0	0.0	0.0	2.2	27.1
キシレン	トン	35.0	5.3	0.0	0.0	0.0	1.8	27.8
6価クロム化合物	トン	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1,3,5-トリメチルベンゼン	トン	5.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1	4.9
トルエン	トン	12.1	5.5	0.0	0.0	0.0	6.3	0.3
鉛及びその化合物	トン	12.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	トン	23.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メチルナフタレン	トン	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4
2,6-ジターシャリブチル-4-クレゾール	トン	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	トン	127.3	14.8	0.0	0.0	0.0	10.6	61.5

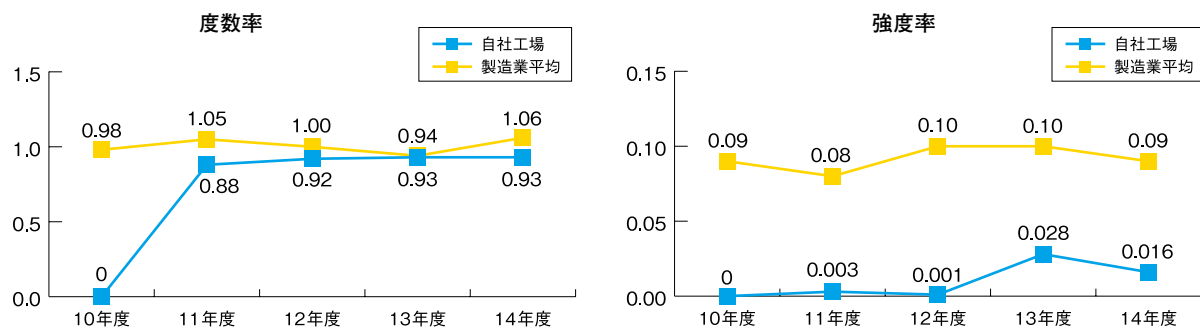
年間取扱量が全社合計で0.5トン以上のPRTR対象物質について記載

マテリアルバランス

事業活動におけるエネルギー、原材料などの「インプット」、そして環境への排出量や廃棄物などの「アウトプット」をマテリアルバランスの考えに基づき環境会計の中で集計しています。



度数率・強度率 (生産活動を対象とする安全指数)



度数率: 100万延労働時間当たりの労働災害による死傷者数をもって、労働災害の頻度を表したものです。

強度率: 1,000延労働時間当たりの労働損失日数をもって、災害の重さの程度を表したものです。

ISO14001 認証取得状況

取得事業場名	登録年月日 登録番号	登録範囲	関連事業所
滋賀工場	2001年1月19日 JQA-EM1275	・鉄骨加工製品、塗装製品、樹脂押出成形製品の設計・開発及び製造	・滋賀積水樹脂株式会社 ・積水樹脂物流株式会社 ・株式会社 積水樹脂技術研究所 ・積水樹脂株式会社 開発部門 ・積水樹脂電子テクノ株式会社 ・オーミテック株式会社
石川工場	2001年3月30日 JQA-EM1487	・PPバンド、ポリエステルバンド、被覆鋼管支柱、家庭用ホース及び射出成形品の製造 ・ストレッチ包装機的设计及び製造	・北陸積水樹脂株式会社
土浦つくば工場	2001年6月15日 JQA-EM1614	・路面標示材、メッシュフェンス及び手摺りの製造	・土浦つくば積水樹脂株式会社 つくば製造所 ・土浦つくば積水樹脂株式会社 土浦製造所
積水樹脂 プラメタル株式会社	2004年8月27日 JQA-EM4182	・建築資材、広告看板材料及び工業材料用金属、樹脂複合板の設計・開発、製造及び販売	・本社、本社工場 ・関東工場 ・東京営業所 ・大阪営業所 ・名古屋営業所
東北積水樹脂株式会社	2004年12月6日 C2013-02269	・道路標識板・柱、サイン、視線誘導標等の交通安全用品の製造	
広島東城工場	2005年3月18日 JQA-EM4627	・路面標示材及び薄層カラー路面舗装材の製造 ・プラスチック擬木及び道路反射鏡の製造	・広島積水樹脂株式会社
スペースシア株式会社	2006年10月10日 EC 06J0142	・パイプ、部材やその加工品の製造、販売、開発	

海外事業所における取得状況 ●Sekisui Jushi(Thailand) Co.,Ltd. ●無錫積水樹脂有限公司

ISO9001 認証取得状況

取得事業所名	登録年月日 登録番号	登録範囲	関連事業所
滋賀工場	1998年12月11日 JQA-2853	・メッシュフェンス、防護柵、防音壁、街路照明灯、シェルター、交通安全用品、樹脂押出製品、標識柱、道路反射鏡、計測器(繊維製巻尺)の設計・開発及び製造	・滋賀積水樹脂株式会社 ・積水樹脂物流株式会社 ・積水樹脂株式会社 開発部門 ・積水樹脂電子テクノ株式会社
石川工場	1999年3月5日 JQA-3133	・PPバンド、ポリエステルバンド及びプラスチック線(エクセル線)、被覆鋼管支柱直管の設計・開発及び製造	・北陸積水樹脂株式会社
土浦つくば工場	1999年8月6日 JQA-QM3615	・メッシュフェンス、路面標示材、手摺り、防音壁、防護柵の製造	・土浦つくば積水樹脂株式会社 つくば製造所 ・土浦つくば積水樹脂株式会社 土浦製造所
日本ライナー株式会社	2001年2月15日 MSA-QS-937	・道路付属施設(標識、遮音壁、防護柵、トンネル内装、路面標示)及び土木構造物の補修に関わる設計、施工及び付帯サービス	・品質保証部、営業本部、管理部 ・標示技術部(標示1グループ) ・北日本支店 ・関東営業部 ・中部支店 ・関西営業所 ・九州営業所
エスジェイシー寿 株式会社	2002年7月26日 Q0914	・道路標識の設計、製造および施工 ・道路付属施設(マーキング、防護柵、反射鏡)の施工	・鈴鹿営業所
積水樹脂 プラメタル株式会社	2003年7月25日 JQA-QMA10252	・建築資材、広告看板材料及び工業材料用金属、樹脂複合板の設計・開発、製造及び販売	・本社、本社工場 ・関東工場 ・東京営業所 ・大阪営業所 ・名古屋営業所
広島東城工場	2004年3月26日 JQA-QMA11212	・路面標示材、エポキシ樹脂を除く薄層カラー路面舗装材、プラスチック押出成形擬木、プラスチック射出成形擬木及び道路反射鏡の製造	・広島積水樹脂株式会社
東北積水樹脂株式会社	2007年12月6日 C2013-02268	・道路標識板・柱、サイン、視線誘導標等の交通安全用品の製造	

海外事業所における取得状況 ●Sekisui Jushi(Thailand) Co.,Ltd. ●Sekisui Jushi Strapping B.V.
●Sekisui Jushi Philippines Group ●無錫積水樹脂有限公司

(※1) PRTR法とは正式名称を「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」といいます。人の健康や生態系に有害なおそれがある化学物質について環境中への排出量及び廃棄物に含まれる移動量を事業者が自ら把握して、行政に報告し、さらに行政は事業者からの報告や統計資料を用いた推計に基づき排出量・移動量を集計・公表する制度です。

(※2) 場内無害化: 製造プロセスにて発生した溶剤ガスを焼却分解し無害化したものです。



積水樹脂株式会社

本 社

〒530-8565 大阪市北区西天満2丁目4番4号 堂島関電ビル6F
TEL:06(6365)3204 FAX:06(6365)7181
URL:<http://www.sekisuijushi.co.jp/>

東京本社

〒105-0022 東京都港区海岸1丁目11番1号 ニューピア竹芝ノースタワー12F
TEL:03(5400)1801 FAX:03(5400)1833

お問い合わせ先

コーポレート部

〒530-8565 大阪市北区西天満2丁目4番4号 堂島関電ビル6F
TEL:06(6365)3288 FAX:06(6365)7181

評価・環境管理部

〒520-2596 滋賀県蒲生郡竜王町大字鏡字谷田731-1
TEL:0748(58)2488 FAX:0748(58)3326



当社は、「国連生物多様性の10年日本委員会」の取り組みに協賛しております。



当社は、「公益財団法人交通遺児育英会」の活動に協賛しております。